

第5期わかちあいプラン 振り返りシート（令和6年度）

国府台地区社会福祉協議会

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	社協地区担当者、CSW の取り組み	行政（市川市）の取り組み
テーマ1 「お互いさま事業」の実施 ～身近な地域の支え合い～	・お互いさま事業の具体化 ・お互いさま事業の実施状況 ・お互いさま事業の充実	・民生委員と地域ケア相談員、高齢者サポートセンター職員、社協担当者と地域交流会を行い個別支援のケースついで話し合った。 ・実施している地区の視察を計画していたが実施できなかった	・コーディネーターに対する活動助成を行った。 ・地区代表者連絡会で、実施地区の取り組み状況の報告をしていただく等の調整を図った。	・お互いさま事業について、他地区の状況など踏まえて会議等で説明を行った	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者がおり、地域での支えあい活動の醸成につながった。
テーマ2 てるぼサロン および 地区社協事業の拡充 ～“ふれあい”や “つながり”を育むために～	・てるぼサロンの充実 ・地区社協事業の充実 ・担い手の確保 ・活動の場の確保	【てるぼサロンの運営・支援】 ・自治会の掲示板を活用し、サロンのイベントPRを1年間続けて行ったのでサロンの参加者が増えた。 ・サロン関係者、自治会役員が声かけした結果、関係者の参加者が増えた ・サロン関係者を通じ、サロンの講師をお願い出来た ・給水スポットが設置され、気軽に立ち寄れる場所が確保、利用する方が増えた 【地区社協事業の開催】 ・自治会の掲示板を活用し、地区社協のイベントPRを行った結果、参加者が増えた ・声かけなど積極的な参加を促したが大きな変化はなかった ・福祉委員・ボランティア等の人材の発掘には至らなかった ・自治会、こども会とコラボイベントが出来た	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に対して行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	・てるぼサロン、地区社協事業の相談・調整・運営支援を行った。 ・地域包括支援課のフレイル予防についてのアンケートをてるぼサロンで行い、サロン参加者の健康に関する調査を行った	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者がおり、地域での支えあい活動の醸成につながった。 ・「地域活動応援制度」の活動場所を提供してもらえるように、事業者へ資料の送付を行った。
テーマ3 地域連携の強化 ～地域における 福祉課題の把握と対応～	・地域ケア拠点の充実 ※拠点の機能強化 ・相談員会議の充実 ※相談機能の強化 ※個別ケースの検討 ・地域ケアシステム推進連絡会の充実 ※地域における福祉課題の共有 ※団体間・関係機関との連携・協働	【地域ケア拠点の機能強化】 ・来場者は増えたが相談件数が増えていない 【地域ケアシステム推進連絡会】 ・コロナ禍以降、久しぶりに実施することが出来た ・事業報告だけでなく、地域の課題などについても話し合いが出来た ・推進委員に引き込むように地区内の関係機関の子ども会、高齢者クラブ、諸団体に声かけをしたが成果がえられなかった 【相談員会議】 ・年6回開催し、行政、高齢者サポートセンター、社協職員で情報共有することが出来た	・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないか相談・調整を行った。 ・てるぼオアシス（ウォーターサーバー）設置に向け働きかけを行った。	・地域ケアシステム推進連絡会に参加し、地域の課題把握、情報の共有を行った。 ・相談員会議にて、地域ケアに来所者が来るための取り組みとして、他地区の状況を伝えた。 ・個別ケースについて相談に応じ専門機関へ繋いだ。 ・地域ケア会議に参加し、関係機関との連携を図った。 ・高サガ管理者・SCと定期的に会議を開催し連携を図った。	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を開催した。 ・相談のあった方に対し、生活支援・社会参加情報サイト「市川支え合いネット」や「きょういくところ」等を使い、地域活動の場を紹介した。 ・生活支援サービスを提供する事業者に対し、「市川支え合いネット」を周知し、登録を働きかけた。
テーマ4 地域で行いたい新たな取り組み ～新規事業や新たな提案～	・新規地区社協事業 ・他団体との共催事業 ・他団体の応援・育成事業	・地区サロン事業に自治会青少年部に声を掛け、大人と子どもが楽しめるイベントを行った	・地区代表者連絡会で、他地区との情報交換を図るための働きかけを行った。	・新規事業の取り組みについて会議等に参加し、相談支援を行った。	・新規事業の取り組みについて、会議等で情報共有を行った。

第5期わかちあいプラン 振り返りシート（令和6年度）

国分地区社会福祉協議会

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	社協地区担当者、CSW の取り組み	行政（市川市）の取り組み
テーマ1 「お互いさま事業」の実施 ～身近な地域の支え合い～	・お互いさま事業の具体化 ・お互いさま事業の実施状況 ・お互いさま事業の充実	【お互い様事業について】 ・地区社協として協議を行い、検討中	・コーディネーターに対する活動助成を行った。 ・地区代表者連絡会で、実施地区の取り組み状況の報告をしていただく等の調整を図った。	・お互いさま事業について役員会等において協議検討を行い、実施地区の状況等の報告を行う。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者がおり、地域での支えあい活動の醸成につながった。
テーマ2 てるぼサロン および 地区社協事業の拡充 ～“ふれあい”や “つながり”を育むために～	・てるぼサロンの充実 ・地区社協事業の充実 ・担い手の確保 ・活動の場の確保	【てるぼサロン・地区社協事業について】 ・昨年度まではコロナ禍の影響により3ヵ所での実施であったが、令和6年度はすべてのサロン（ほっとサロン、ハッピーサロン♡いなこし、サロン風の谷、サロン太陽根古屋、サロントマト、サロンセブン）が実施できた。 - また、新規サロンとして「サロン平川なごみ」が2月よりスタートした。 ・史跡巡り健康ウォークやふれあいグラウンドゴルフ大会を開催し、自治会と連携し広報周知することで参加者を募った。 ・今年度は中国小学校の体育館にてふれあいの集いを開催し多くの高齢者が参加し、地域で活動している団体に演目の発表をしてもらい地域交流の貴重な場となった。また、その準備などで福祉委員どうしの連携を深められた。 ・地区社協便りを年2回発行し、地区社協事業や地域の活動などを掲載し活動の周知を行った。 【課題】 ・地区社協の認知度がまだまだ低いので、積極的にPRを行う。 ・新規参加者の獲得の方法について検討を行う。 ・会場が遠く参加したくても参加できないとの声があるので、新たな会場での開催も検討する。	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に対して行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	・てるぼサロン、地区社協事業の相談・調整・運営支援を行った。 ・新規サロン立ち上げに向け支援を行った。 ・他地区での事業・活動について情報共有を行った。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者がおり、地域での支えあい活動の醸成につながった。 ・「地域活動応援制度」の活動場所を提供してもらえるように、事業者へ資料の送付を行った。
テーマ3 地域連携の強化 ～地域における 福祉課題の把握と対応～	・地域ケア拠点の充実 ※拠点の機能強化 ・相談員会議の充実 ※相談機能の強化 ※個別ケースの検討 ・地域ケアシステム推進連絡会の充実 ※地域における福祉課題の共有 ※団体間・関係機関との連携・協働	【地域ケア拠点について】 ・地区社協便りを年2回発行しPRに努めた。 ・市川社協の「てるぼオアシス（ウォーターサーバー）」の設置に協力し、新しい方を含め地域住民の方が来所しやすい環境づくりを行った。 ・コミュニティソーシャルワーカーによる出張相談を月1回地域ケア拠点にて行った。 ・年1回、相談員会議を実施した。（令和6年9月） 【地域ケアシステム推進連絡会について】 ・年2回、連絡会を実施した。（令和6年9月・令和7年3月） ・国分地区の地域課題を元に関係機関に参加してもらい、課題の共有、制度・サービス等の理解を深めた。 【地域課題状況把握と対応の検討】 ・役員会を定期的に開催し、地域の課題について話し合った。 【地域の福祉課題把握について】 ・各会議に行政関係、社協、高齢者サポートセンター等の関係機関に参加していただき情報共有・連携を図った。 【課題】 ・各会議の場にて地域課題の把握・共有を積極的に行い、地区社協の新たな事業の展開について検討を行う。	・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないか相談・調整を行った。 ・てるぼオアシス（ウォーターサーバー）設置に向け働きかけを行った。	・地域ケアシステム推進連絡会に参加し、地域の課題把握、情報の共有を行った。社協事業・よりそい支援事業の報告発表を行う。 ・相談のあった方に対し、生活支援・社会参加情報サイト「市川支え合いネット」や「きょういくところ」等を使い、地域活動の場を紹介した。 ・生活支援サービスを提供する事業者に対し、「市川支え合いネット」を周知し、登録を働きかけた。 ・推進連絡会にて、「空き家対策」をテーマに講話を行った。	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を開催した。 ・相談のあった方に対し、生活支援・社会参加情報サイト「市川支え合いネット」や「きょういくところ」等を使い、地域活動の場を紹介した。 ・生活支援サービスを提供する事業者に対し、「市川支え合いネット」を周知し、登録を働きかけた。 ・推進連絡会にて、「空き家対策」をテーマに講話を行った。
テーマ4 地域で行いたい新たな取り組み ～新規事業や新たな提案～	・新規地区社協事業 ・他団体との共催事業 ・他団体の応援・育成事業	・国分川鯉のぼりフェスティバルなどの地域のイベントへ参加し地区社協のPRを行うことを検討する。	・地区代表者連絡会で、他地区との情報交換を図るための働きかけを行った。	・新規事業の取り組みについて会議等に参加し、相談支援を行った。	・新規事業の取り組みについて、会議等で情報共有を行った。

第5期わかちあいプラン 振り返りシート（令和6年度）

曾谷地区社会福祉協議会

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	社協地区担当者、CSW の取り組み	行政（市川市）の取り組み
テーマ1 「お互いさま事業」の実施 ～身近な地域の支え合い～	・お互いさま事業の具体化 ・お互いさま事業の実施状況 ・お互いさま事業の充実	【お互いさま事業】 ・令和6年度の実績 コーディネーター：6名、協力員：24名、活動回数：145回 主な活動内容：買い物代行、電球交換、健康増進支援（卓球相手）、草むしりなど ・自治会を通じてのチラシ配布などの周知活動を行い、協力員・利用登録者は増加している。 ・円滑に活動を行うためにコーディネーター会議を毎月開催。 ・協力員に安心して活動をしてもらえるように協力員交流会を開催し、意見交換・情報共有を行った。 【課題】 ・新たな協力員の発掘	・コーディネーターに対する活動助成を行った。 ・地区代表者連絡会で、実施地区の取り組み状況の報告をしていただく等の調整を図った。	・毎月開催のコーディネーター会議に参加し情報共有を行い、活動に対しての助言を行った。 ・必要に応じ個別ケースの専門機関との橋渡しをおこなった。 ・協力員交流会に参加し安心して活動できるように情報交換を行った。 ・利用者・協力員募集に関わるチラシ作成等の協力を行う。 ・新規ケースにはコーディネーターと共に訪問を行った。 ・他地区の状況の共有を行った。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者がおり、地域での支えあい活動の醸成につながった。
テーマ2 てるぼサロン および 地区社協事業の拡充 ～“ふれあい”や “つながり”を育むために～	・てるぼサロンの充実 ・地区社協事業の充実 ・担い手の確保 ・活動の場の確保	【てるぼサロン・地区社協事業について】 ・一般サロン3ヶ所を開催。 ・各サロンでは地域住民のニーズに合わせた内容を検討し開催。 ・高齢者サポートセンター、保健センター、行政等にサロンの講師として来ていただき連携を図った。 ・昨年度に引き続き、家庭で料理をつくりインターネットを利用して投稿する「親子クッキングコンテスト」を開催。学校と連携して審査を行い、料理写真を公民館にてパネル展示を行う ・広報部会を開催し、広報「なごみ」を年2回発行。地区社協事業や地域の活動などを掲載。地区社協事業の周知を図り、お互いさま事業の協力員の募集、利用者の募集を同時に行う。 ・ふれあいの集いを5ヵ所で開催し、多くの方に参加していただけた。 【課題】 ・子どもと高齢者が関われるような事業について引き続き検討を行う。 ・新しい方が参加しやすい環境づくりについて引き続き検討を行う。 ・サロンの参加者が減少傾向のあるため、新たな参加者の確保、継続的に参加できる環境作りを行っていく。 ・新たな周知方法としてITの活用を検討していく。	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に對して行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	・てるぼサロン、地区社協事業の相談・調整・運営支援を行った。 ・他地区での事業・活動について情報共有を行った。 ・親子クッキングコンテスト等インターネットを使用した事業実施について支援を行う。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者がおり、地域での支えあい活動の醸成につながった。 ・「地域活動応援制度」の活動場所を提供してもらえるように、事業者へ資料の送付を行った。
テーマ3 地域連携の強化 ～地域における 福祉課題の把握と対応～	・地域ケア拠点の充実 ※拠点の機能強化 ・相談員会議の充実 ※相談機能の強化 ※個別ケースの検討 ・地域ケアシステム推進連絡会の充実 ※地域における福祉課題の共有 ※団体間・関係機関との連携・協働	【地域ケア拠点の状況】 ・市川社協の「てるぼオアシス（ウォーターサーバー）」の設置に協力し、新しい方を含め地域住民の方が来所しやすい環境づくりを行った。 【地域ケアシステム推進連絡会の開催】 ・コロナ禍より開催することができなかった、地域ケアシステム推進連絡会を開催。 【地域連携の強化】 各会議に行政関係、社協、高齢者サポートセンター、保健センター等の関係機関に参加していただき情報共有・連携を図った。 【課題】 ・会議への参加者が減少しているので、参加しやすい開催方法の検討を行う。	・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないか相談・調整を行った。 ・てるぼオアシス（ウォーターサーバー）設置に向け働きかけを行った。	・個別ケースの対応への助言・支援を行った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に参加し、地域の課題把握、情報の共有を行った。 ・エリア会議に参加し地域の情報共有を行い、関係機関との連携を図った。 ・SCとの意見交換会を定期的に開催し連携を図った。	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を開催した。 ・相談のあった方に対し、生活支援・社会参加情報サイト「市川支え合いネット」や「きょういくところ」等を使い、地域活動の場を紹介した。 ・生活支援サービスを提供する事業者に対し、「市川支え合いネット」を周知し、登録を働きかけた。
テーマ4 地域で行いたい新たな取り組み ～新規事業や新たな提案～	・新規地区社協事業 ・他団体との共催事業 ・他団体の応援・育成事業	・ふれあい芸術祭の開催について検討を行っている	・地区代表者連絡会で、他地区との情報交換を図るための働きかけを行った。	・新規事業の取り組みについて会議等に参加し、相談支援を行った。	・新規事業の取り組みについて、会議等で情報共有を行った。

第5期わかちあいプラン 振り返りシート（令和6年度）

大柏地区社会福祉協議会

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	社協地区担当者、CSW の取り組み	行政（市川市）の取り組み
テーマ1 「お互いさま事業」の実施 ～身近な地域の支え合い～	・お互いさま事業の具体化 ・お互いさま事業の実施状況 ・お互いさま事業の充実	【お互いさま事業】 ・各会議にて内容の共有を実施	・コーディネーターに対する活動助成を行った。 ・地区代表者連絡会で、実施地区の取り組み状況の報告をしていただく等の調整を図った。	・お互いさま事業について役員会等において協議検討を行い、実施地区の状況等の報告を行う。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者があり、地域での支えあい活動の醸成につながった。
テーマ2 てるぼサロン および 地区社協事業の拡充 ～“ふれあい”や “つながり”を育むために～	・てるぼサロンの充実 ・地区社協事業の充実 ・担い手の確保 ・活動の場の確保	【てるぼサロン】 ・一般サロン6ヵ所、子育てサロン1ヵ所を実施 ・自治会、民生委員児童委員の協力のもと、毎月サロンの開催周知を実施（掲示、回覧） 【地区社協事業】 ・拠点を活用した新規事業「電話訪問」の検討を実施 【課題】 ・地域が広範囲のため、サロン・地域ケア拠点に行けない住民がいる	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に對して行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	・てるぼサロン、地区社協事業の相談・調整・運営支援を行った。 ・他地区での事業・活動について情報共有を行った。 ・拠点を活用した新規事業「電話訪問」実施に向け相談支援。 ・相談員研修会実施のため講師を調整	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者があり、地域での支えあい活動の醸成につながった。 ・「地域活動応援制度」の活動場所を提供してもらえるように、事業者へ資料の送付を行った。
テーマ3 地域連携の強化 ～地域における 福祉課題の把握と対応～	・地域ケア拠点の充実 ※拠点の機能強化 ・相談員会議の充実 ※相談機能の強化 ※個別ケースの検討 ・地域ケアシステム推進連絡会の充実 ※地域における福祉課題の共有 ※団体間・関係機関との連携・協働	【地域ケア拠点】 ・相談員連絡会・地域ケア部会を年6回実施 ・開所日は外の敷地内にのぼり旗を設置 ・地区内サロン情報の集約、掲示物の作成を実施 ・コミュニティソーシャルワーカーによる出張相談を月1回地域ケア拠点にて実施 【地域ケア推進連絡会】 ・地区が広範囲のため、地域ケア推進連絡会を3ブロックに分かれて開催 ・3ブロックにブロック長、副ブロック長を選任 【地域連携の強化】 ・各会議に行政関係・社協・高齢者サポートセンター等の関係機関が参加し情報共有・連携を図った 【課題】 ・地域ケア拠点が広く地域住民に知られていないので、引き続き積極的にPRを行う ・各会議の場にて地域課題の把握・共有を行い、地区社協の新たな事業展開について検討を行う	・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないか相談・調整を行った。 ・てるぼオアシス（ウォーターサーバー）設置に向け働きかけを行った。	・地域ケアシステム推進連絡会に参加し、地域の課題把握、情報の共有を行った。 ・地域ケア拠点のPRを行うためののぼり旗・掲示板等設置に向けて施設との調整を行った。 ・個別ケースについて相談に応じ専門機関へ繋いだ。 ・必要に応じてPC入力方法などを支援。 ・エリア会議に参加し地域の情報共有を行い、関係機関との連携を図った。 ・SCとの意見交換会を定期的に開催し連携を図った。	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を開催した。 ・相談のあった方に対し、生活支援・社会参加情報サイト「市川支え合いネット」や「きょういくところ」等を使い、地域活動の場を紹介した。 ・生活支援サービスを提供する事業者に対し、「市川支え合いネット」を周知し、登録を働きかけた。
テーマ4 地域で行いたい新たな取り組み ～新規事業や新たな提案～	・新規地区社協事業 ・他団体との共催事業 ・他団体の応援・育成事業	・期間内での検討事項	・地区代表者連絡会で、他地区との情報交換を図るための働きかけを行った。	・新規事業の取り組みについて会議等で他地区の情報等を共有した。	・新規事業の取り組みについて、会議等で情報共有を行った。

第5期わかちあいプラン 振り返りシート（令和6年度）

宮久保下貝塚地区社会福祉協議会

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	社協地区担当者、CSW の取り組み	行政（市川市）の取り組み
テーマ1 「お互いさま事業」の実施 ～身近な地域の支え合い～	・お互いさま事業の具体化 ・お互いさま事業の実施状況 ・お互いさま事業の充実	【お互いさま事業】 先進的に助け合い事業を行っている佐倉市の根郷地区、ユーカリが丘地区へ視察研修を行った。 視察内容を参考にお互いさま事業実施について今後も検討を進めていく。	・コーディネーターに対する活動助成を行った。 ・地区代表者連絡会で、実施地区の取り組み状況の報告をしていただく等の調整を図った。	・お互いさま事業について各会議において協議検討を行い、実施地区の状況等の報告を行う。 ・視察研修の実施先の相談・調整を行う。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者があり、地域での支えあい活動の醸成につながった。
テーマ2 てるぼサロン および 地区社協事業の拡充 ～“ふれあい”や “つながり”を育むために～	・てるぼサロンの充実 ・地区社協事業の充実 ・担い手の確保 ・活動の場の確保	【てるぼサロンの状況】 すべてのサロンが通常開催。 子育てサロンの参加対象者（年齢）を見直し、参加者の増員につながった。 【地区社協事業の状況】 ・「敬老友愛訪問」「あいさつ運動」「地域ふれあいグラウンドゴルフ大会」「寄り合い処で体操」等、地域の多くの方の参加できる企画を実施。 ・市バス利用し福祉委員バス研修を実施（佐倉市の助け合い事業視察） 【課題】 地区社協の認知度がまだまだ低いので、積極的にPRをおこなう。 ・若い世代の参加者・担い手確保に向けて、各団体との連携についてはまだ十分には図れてはいない。	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に對して行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	・子育てサロンの参加対象者（年齢）を見直しの相談に乗る ・てるぼサロン、地区社協事業の相談・調整・運営支援を行った。 ・他地区での事業・活動について情報共有を行った。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者があり、地域での支えあい活動の醸成につながった。 ・「地域活動応援制度」の活動場所を提供してもらえるように、事業者へ資料の送付を行った。
テーマ3 地域連携の強化 ～地域における 福祉課題の把握と対応～	・地域ケア拠点の充実 ※拠点の機能強化 ・相談員会議の充実 ※相談機能の強化 ※個別ケースの検討 ・地域ケアシステム推進連絡会の充実 ※地域における福祉課題の共有 ※団体間・関係機関との連携・協働	【地域ケア拠点の状況】 ・毎日14時から「寄り合い処で体操」を実施し、ケアへの来所者増加に繋がっている。 寄り合い処で体操：延べ1,772名参加 ・高齢者サポートセンター、コミュニティソーシャルワーカーによる出張相談をそれぞれ月1回行っている。 【地域ケアシステム推進連絡会】 ・コロナ禍より開催することができなかった、地域ケアシステム推進連絡会を開催（12月） 【地域連携の強化】 ・宮久保小学校4年生の福祉教育、防災フェスタへ参加し、学校との連携を図った（車イス体験） ・地区社協として宮久保小のイベント等へのお手伝いを派遣するシステムを検討中。 【課題】 ・地域ケアシステム推進連絡会へ関係団体等に参加してもらい、地域の課題の把握・共有を積極的に行っていく。来年は宮久保小の先生に参加していただく予定。	・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないか相談・調整を行った。 ・てるぼオアシス（ウォーターサーバー）設置に向け働きかけを行った。	・役員会・相談員会議等に参加し、地域の課題把握、情報の共有を行った。 ・地区内の小学校の福祉教育・防災、ふれあいフェスに福祉委員と参加。また学校を訪問し教頭先生と地域課題の共有を行い連携を図った。 ・地域ケア拠点で行える新規活動について、役員会等で助言を行った。 ・エリア会議に参加し地域の情報共有を行い、関係機関との連携を図った。 ・SCとの意見交換会を定期的に開催し連携を図った。	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を開催した。 ・相談のあった方に対し、生活支援・社会参加情報サイト「市川支え合いネット」や「きょういくところ」等を使い、地域活動の場を紹介した。 ・生活支援サービスを提供する事業者に対し、「市川支え合いネット」を周知し、登録を働きかけた。
テーマ4 地域で行いたい新たな取り組み ～新規事業や新たな提案～	・新規地区社協事業 ・他団体との共催事業 ・他団体の応援・育成事業	・地域ケアを活用した新たな集いの場の検討を行った。 【課題】 ・会議等で把握した地域課題を元に新たな地区社協事業を検討していく。	・地区代表者連絡会で、他地区との情報交換を図るための働きかけを行った。	・新規事業の取り組みについて会議等に参加し、相談支援を行った。	・新規事業の取り組みについて、会議等で情報共有を行った。

第5期わかちあいプラン 振り返りシート（令和6年度）

市川第一地区社会福祉協議会

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	社協地区担当者、CSW の取り組み	行政（市川市）の取り組み
テーマ1 「お互いさま事業」の実施 ～身近な地域の支え合い～	・お互いさま事業の具体化 ・お互いさま事業の実施状況 ・お互いさま事業の充実	【お互いさま事業】 ・地域ケアシステム推進連絡会場で、他地区の状況をCSWから報告された ・一斉開催するのではなく、要望のある自治会・マンション単位で限定的に始めていく方法も検討 【課題】 ・地区内でどのようなニーズが多いのか把握するとともに、担い手を確保していく ・人の手を借りることに抵抗がある方が、孤立したままになってしまう	・コーディネーターに対する活動助成を行った。 ・地区代表者連絡会で、実施地区の取り組み状況の報告をしていただく等の調整を図った。	・お互いさま事業について、他地区の状況など踏まえて会議等で説明を行った	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者があり、地域での支えあい活動の醸成につながった。
テーマ2 てるぼサロン および 地区社協事業の拡充 ～“ふれあい”や “つながり”を育むために～	・てるぼサロンの充実 ・地区社協事業の充実 ・担い手の確保 ・活動の場の確保	【てるぼサロンの運営・支援】 ・てるぼサロンの参加者は増えてきている ・夫婦での参加や友人を連れてこられる方が増え、新規参加者が増加傾向にある ・「赤ちゃん広場」を廃止。新たな子育てサロンをNPOに依頼 【地区社協事業の開催】 ・地域の方の身体を動かすことへの意欲が高く、木曜体操での参加者が増えている ・初めて「ふれあい会食会」を三会場に分けて開催した。身近な場での開催で少人数で密に関わることができた ・イベントにて2次元コードを活用した申し込み方法を導入するなど、周知方法を工夫したが、大きな変化は見られなかった 【課題】 ・木曜体操の参加者が多く、地域ケアでは若干狭くなってきている ・実施するイベントにより参加者の年齢層に偏りがあるため、事業を通した世代間交流が少ない ・「親子クッキング」は会場の関係で少人数しか参加できない	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に對して行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	・てるぼサロン、地区社協事業の相談・調整・運営支援を行った。 ・てるぼサロンの必要性について、会議等で説明を行った ・地域包括支援課のフレイル予防についてのアンケートをてるぼサロンで行い、サロン参加者の健康に関する調査を行った	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者があり、地域での支えあい活動の醸成につながった。 ・「地域活動応援制度」の活動場所を提供してもらえるように、事業者へ資料の送付を行った。
テーマ3 地域連携の強化 ～地域における 福祉課題の把握と対応～	・地域ケア拠点の充実 ※拠点の機能強化 ・相談員会議の充実 ※相談機能の強化 ※個別ケースの検討 ・地域ケアシステム推進連絡会の充実 ※地域における福祉課題の共有 ※団体間・関係機関との連携・協働	【地域拠点の強化機能の強化】 ・地域ケア拠点により多くの地域住民の方に来ていただけるよう、ケア拠点の新たな活用方法を検討している ・PRの強化、工夫を行い（広報誌の検討）拠点の活用の活性化を図る 【地域ケアシステム推進連絡会・福祉委員会について】 ・地域ケアシステム推進連絡会・福祉委員会を定期的に開催し、各関係機関と地域課題について共有と意見交換を行っている 【相談員会議について】 ・定期的に相談員会議を開催し、相談員同士での情報共有と意見交換を行う 【課題】 ・地域ケアシステム推進連絡会は、地域課題に関する意見が出ることが少ない ・特別会計積み立ての運用について検討が必要	・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないが相談・調整を行った。 ・てるぼオアシス（ウォーターサーバー）設置に向け働きかけを行った。	・地域ケアシステム推進連絡会に参加し、地域の課題把握、情報の共有を行った。 ・相談員会議にて、地域ケアに来所者が来るための取り組みとして、他地区の状況を伝えた。 ・個別ケースについて相談に応じ専門機関へ繋いだ。 ・地域ケア会議に参加し、関係機関との連携を図った。 ・高サガ管理者・SCと定期的に会議を開催し連携を図った。	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を開催した。 ・相談のあった方に対し、生活支援・社会参加情報サイト「市川支え合いネット」や「きょういくところ」等を使い、地域活動の場を紹介した。 ・生活支援サービスを提供する事業者に対し、「市川支え合いネット」を周知し、登録を働きかけた。
テーマ4 地域で行いたい新たな取り組み ～新規事業や新たな提案～	・新規地区社協事業 ・他団体との共催事業 ・他団体の応援・育成事業	・既存の「ふれあい会食会」を三会場に分けて開催した ・パソコンを来年度購入し、相談員へパソコン研修を行い業務の効率化を図る	・地区代表者連絡会で、他地区との情報交換を図るための働きかけを行った。	・新規事業の取り組みについて会議等に参加し、相談支援を行った。	・新規事業の取り組みについて、会議等で情報共有を行った。

第5期わかちあいプラン 振り返りシート（令和6年度）

市川第二地区社会福祉協議会

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	社協地区担当者、CSW の取り組み	行政（市川市）の取り組み
テーマ1 「お互いさま事業」の実施 ～身近な地域の支え合い～	・お互いさま事業の具体化 ・お互いさま事業の実施状況 ・お互いさま事業の充実	（お互いさま事業） ・お互いさま事業については地域ケア推進連絡会で、コミュニティソーシャルワーカーから他地区の状況等の説明を受ける ・アンケートを取ったところ地域の中にお互いさま事業が必要な方がいることが分かる ・自治会単位・マンション単位での実施も検討	・コーディネーターに対する活動助成を行った。 ・地区代表者連絡会で、実施地区の取り組み状況の報告をしていただく等の調整を図った。	・お互いさま事業について、他地区の状況など踏まえて会議等で説明を行った ・いくつかの自治会で開催を検討しており、相談の応対を行った	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者があり、地域での支えあい活動の醸成につながった。
テーマ2 てるぼサロン および 地区社協事業の拡充 ～“ふれあい”や “つながり”を育むために～	・てるぼサロンの充実 ・地区社協事業の充実 ・担い手の確保 ・活動の場の確保	（てるぼサロン） ・「やさしいヨガ」と「ピンポンクラブ」が開催場所の変更に伴い市川第一地区社協実施のサロンとなった ・「茶談サロン」が1月より新たに実施となった （地区社協事業） ・「ふれあい七社めぐり」は、年2回実施した ・「ふれあいセンターまつり」は、コロナ禍以降5年ぶりに開催できた。ふれあいセンターが大規模改修中だったため、屋外会場も使用するなど開催を工夫した。各関係機関の協力もあり盛況であった。 ・地区広報紙「ふれあいDai2」は、年2回発行した。内容は地区社協事業の行事周知報告の他、地区内各団体の行事報告の情報が共有できた。 ・福祉委員研修会は、市有バスを利用した研修会の開催ができた。 ・「手長えび釣り会」と「男性料理教室」は中止 （課題） ・「ふれあい七社めぐり」は近年参加者が減少傾向にあるため、次回は募集人数を縮小し今後の動向を探ることとした	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に對して行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	・てるぼサロン、地区社協事業の相談・調整・運営支援を行った。 ・てるぼサロンの必要性について、会議等で説明を行った ・新規サロンの立ち上げ準備を行った ・地域包括支援課のフレイル予防についてのアンケートをてるぼサロンで行い、サロン参加者の健康に関する調査を行った	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者があり、地域での支えあい活動の醸成につながった。 ・「地域活動応援制度」の活動場所を提供してもらえるように、事業者へ資料の送付を行った。
テーマ3 地域連携の強化 ～地域における 福祉課題の把握と対応～	・地域ケア拠点の充実 ※拠点の機能強化 ・相談員会議の充実 ※相談機能の強化 ※個別ケースの検討 ・地域ケアシステム推進連絡会の充実 ※地域における福祉課題の共有 ※団体間・関係機関との連携・協働	（地域ケア拠点） ・月～金の10～16時まで開所した（地域ケア推進連絡会） ・地域ケア推進連絡会を年6回開催し、地域の福祉課題について情報共有された（相談員会議の開催） ・相談員会議を年6回開催した （課題） ・地域ケア推進連絡会にて地域の福祉課題に対する意見があまり出なかった ・地域ケアの来所者がコロナ前に比べると減少している	・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないか相談・調整を行った。 ・てるぼオアシス（ウォーターサーバー）設置に向け働きかけを行った。	・地域ケアシステム推進連絡会に参加し、地域の課題把握、情報の共有を行った。 ・相談員会議にて、地域ケアに来所者が来るための取り組みとして、他地区の状況を伝えた。 ・個別ケースについて相談に応じ専門機関へ繋いだ。 ・地域ケア会議に参加し、関係機関との連携を図った。 ・高サが管理者・SCと定期的に会議を開催し連携を図った。	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を開催した。 ・相談のあった方に対し、生活支援・社会参加情報サイト「市川支え合いネット」や「きょういところ」等を使い、地域活動の場を紹介した。 ・生活支援サービスを提供する事業者に対し、「市川支え合いネット」を周知し、登録を働きかけた。
テーマ4 地域で行いたい新たな取り組み ～新規事業や新たな提案～	・新規地区社協事業 ・他団体との共催事業 ・他団体の応援・育成事業	・地域ケアの場所を使って、体操など人が来るための企画を検討	・地区代表者連絡会で、他地区との情報交換を図るための働きかけを行った。	・地域ケア周辺の施設利用について、行政と調整を行った	・新規事業の取り組みについて、会議等で情報共有を行った。

第5期わかちあいプラン 振り返りシート（令和6年度）

真間地区社会福祉協議会

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	社協地区担当者、CSW の取り組み	行政（市川市）の取り組み
テーマ1 「お互いさま事業」の実施 ～身近な地域の支え合い～	・お互いさま事業の具体化 ・お互いさま事業の実施状況 ・お互いさま事業の充実	・地域課題に関するアンケート調査を行った。 ・他機関との連携強化。 ・地域情報の集約化と整理。	・コーディネートに対する活動助成を行った。 ・地区代表者連絡会で、実施地区の取り組み状況の報告をしていたなど等の調整を図った。	・相談を受けている地域の困りごとに関する報告を会議等で行った	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者があり、地域での支えあい活動の醸成につながった。
テーマ2 てるぼサロン および 地区協事業の拡充 ～"ふれあい"や "つながり"を育むために～	・てるぼサロンの充実 ・地区社協事業の充実 ・担い手の確保 ・活動の場の確保	・子育て中の親子が集う、「子育てサロンにここ」は、令和6年10月で、オープンして100回目を迎え、参加者延べ1800人となった。 ・「よってこカフェ」-脳トレ、体操に加え、高サポと連携し認知症講座の開催や終活についての話、配食サービスの試食会など様々なイベントを企画した。 ・「サロンよってこ」-折り紙や絵手紙、ちりめん細工、団扇作りなど季節を感じる手芸を企画した。2月の「てるぼサロンまつり」に出店し大盛況だった。 ・「ボディーアクラブ」-現役の若手プロキックボクサーを講師に、ストレッチ、軽い筋トレやボクササイズを行い、男性参加者も増えている。 ・「ラジオ体操」-恒例の夏季ラジオ体操は、8日間で延べ約2,000人の参加があった。二中のボランティアクラブがスタンプ押しなどで手伝ってくれた。 ・「真間小学校七タまつり」-子どもたちが短冊に思い思いの願い事を込めて笹の葉に飾った。 ・「ふれあい演芸会」-集会所にて開催。地域の芸達者やボランティアグループ、プロのソプラノ歌手など盛りだくさんの内容で、各自治会とも連携し大好評だった。 ・「ふれあい交流会」-昨年度は、インフルエンザの大流行で中止となったが、今年度は、学校との調整を図り開催することができた。1年生3クラスに地域の名人たちが色々な昔遊びを教え、子どもたちに喜ばれた。後日、子どもたちよりお礼の言葉が届き、よってこに掲示した。	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に對して行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	・てるぼサロン、地区社協事業の相談・調整・運営支援を行った。 ・地域包括支援課のフレイル予防についてのアンケートをてるぼサロンで行い、サロン参加者の健康に関する調査を行った	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者があり、地域での支えあい活動の醸成につながった。 ・「地域活動応援制度」の活動場所を提供してもらえるように、事業者へ資料の送付を行った。
テーマ3 地域連携の強化 ～地域における 福祉課題の把握と対応～	・地域ケア拠点の充実 ※拠点の機能強化 ・相談員会議の充実 ※相談機能の強化 ※個別ケースの検討 ・地域ケアシステム推進連絡会の充実 ※地域における福祉課題の共有 ※団体間・関係機関との連携・協働	・「ギャラリー展」-地域の方の写真、油絵・水彩、草細工、書道や真間小、須和田の丘支援学校の作品など毎月替わりで展示をした。ギャラリー展をきっかけに来所される方も増えた。 ・「相談員研修」の実施-保健所職員による研修会を実施し、「精神障害」について理解を深めた。よってここでは困難ケースの相談が多いので、引き続き関係機関との連携をしていく。 ・「よってこ」のレイアウトについて利便性と安全面を考慮し机、イスの配置換えをし、拠点活用の活性化を図った。 ・「PRの強化」-地区社協独自のホームページの設置・更新を行っている。また広報誌を年2回発行しPRを行っている。 ・「よってこ」は高齢者対象と認識されているようで、若い年齢層の来所者が少ないように感じるので、もっと広く地域にPRする必要がある。 ・「よってこルール」決まりごとについて検討し、それを利用者と共有しよってこを快適に利用できるようにした。 ・新たな相談員を増やすには、ほぼボランティアの今の報酬では、新規の相談員の勧誘は困難。 ・食事を提供できるイベントで、より多くの人が参加できないか模索したい。	・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないか相談・調整を行った。 ・てるぼオアシス（ウォーターサーバー）設置に向け働きかけを行った。	・地域ケアシステム推進連絡会に参加し、地域の課題把握、情報の共有を行った。 ・相談員研修に関する講師の調整を行った。 ・個別ケースについて相談に応じ専門機関へ繋いだ。 ・地域ケア会議に参加し、関係機関との連携を図った。 ・高サが管理者・SCと定期的に会議を開催し連携を図った。	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を開催した。 ・相談のあった方に対し、生活支援・社会参加情報サイト「市川支え合いネット」や「きょういくところ」等を使い、地域活動の場を紹介した。 ・生活支援サービスを提供する事業者に対し、「市川支え合いネット」を周知し、登録を働きかけた。
テーマ4 地域で行いたい新たな取り組み ～新規事業や新たな提案～	・新規地区社協事業 ・他団体との共催事業 ・他団体の応援・育成事業	・真間地区自治会連合会自主防災訓練に参加し地域連携を図った。 ・真間小学校校区防災拠点協議会避難所運営訓練に参加。 ・第4回KUGURU展に参加	・地区代表者連絡会で、他地区との情報交換を図るための働きかけを行った。	・新規事業の取り組みについて会議等に参加し、相談支援を行った。	・新規事業の取り組みについて、会議等で情報共有を行った。

第5期わかちあいプラン 振り返りシート（令和6年度）

菅野・須和田地区社会福祉協議会

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	社協地区担当者、CSW の取り組み	行政（市川市）の取り組み
テーマ1 「お互いさま事業」の実施 ～身近な地域の支え合い～	・お互いさま事業の具体化 ・お互いさま事業の実施状況 ・お互いさま事業の充実	【お互いさま事業】 ・令和6年度の実績 コーディネーター：3名 協力員：18名 利用登録者：2名 - 主な活動内容：ゴミ出し ・自治会を通じてのチラシ配布などの周知活動を行い、協力員・利用登録者は増加している 【課題】 ・協力員との連絡手段や仕組みの見直し ・利用者から依頼が入り実際に活動する流れをスムーズに行う ・協力員と利用者との迅速なマッチングを心掛ける ・協力員のサポート体制を強化する	・コーディネーターに対する活動助成を行った。 ・地区代表者連絡会で、実施地区の取り組み状況の報告をしていただく等の調整を図った。	・新規ケース等の訪問支援を行った。 ・個別ケースの対応支援を行った。 ・ライオンズマンション南市川お互いさま事業相談窓口の開設支援を行った。 ・市と共催で実施したボランティア講座において、お互いさま事業について説明し、協力員の確保に繋げた。 ・周知活動の支援を行った	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者がおり、地域での支えあい活動の醸成につながった。
テーマ2 てるぼサロン および 地区社協事業の拡充 ～“ふれあい”や “つながり”を育むために～	・てるぼサロンの充実 ・地区社協事業の充実 ・担い手の確保 ・活動の場の確保	【てるぼサロン・地区社協事業について】 ・一般サロン5ヶ所・子育てサロン3ヶ所を開催 ・菅野西自治会館サロン（囲碁・将棋）継続 ・ナグさん体操サロン（高齢者体操）継続 ・不動産サロン（囲碁・将棋）廃止 ・「東菅野・菅野・須和田オリンピック」は、大人164名子ども161名が参加された →今年度から参加された子どもにクッキーを配布 ・「ふれあい快食会」は、多くの方に参加していただけるよう開催日を4日間、場所を3か所に増やした →合計で54名が参加された ・数年ぶりに福祉委員研修を実施 ・広報誌を年2回自治会を通して全戸配布 【課題】 ・サロンの会場確保 ・サロン開催場所を適切に利用していただくため、参加者に共通認識していく ・「東菅野・菅野・須和田オリンピック」は、東菅野・菅野・須和田地区外の方が参加された時の対応方法 ・「ふれあい快食会」は、申込み方法を見直す	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に対して行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	・新規サロンの立ち上げに向け支援を行った。 ・既存サロンの運営について支援を行った。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者がおり、地域での支えあい活動の醸成につながった。 ・「地域活動応援制度」の活動場所を提供してもらえるように、事業者へ資料の送付を行った。
テーマ3 地域連携の強化 ～地域における 福祉課題の把握と対応～	・地域ケア拠点の充実 ※拠点の機能強化 ・相談員会議の充実 ※相談機能の強化 ※個別ケースの検討 ・地域ケアシステム推進連絡会の充実 ※地域における福祉課題の共有 ※団体間・関係機関との連携・協働	【地域ケア拠点の状況】 ・地域ケア拠点が(火)～(金)10時～16時で開所されている ・相談員が2人増員された 【地域ケアシステム推進連絡会の開催】 ・地域ケアシステム推進連絡会を年4回(1/3カ月)開催している ・地域ケアシステム推進連絡会では、地域住民（自治会、民生委員、子ども会、高齢者クラブ等）の他、行政・市社協・高齢者サポートセンターが参加している 【地域連携の強化】 各会議に行政関係、社協、高齢者サポートセンター、てるぼサロンの主催者等の関係機関に参加していただき情報共有・連携を図った 【課題】 ・相談件数が少ないため、地域ケア拠点の広報を強化 ・地域ケア拠点の環境整備 ・会議に欠席された自治会長との情報共有の見直し	・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないか相談・調整を行った。 ・てるぼオアシス（ウォーターサーバー）設置に向け働きかけを行った。	・各会議に参加・助言を行った。 ・事業の様子などをわかりやすく共有できるよう、会議でプロジェクターを用いて写真を投影するなどして説明を行った。 ・会議での交流しやすい環境づくりの支援を行った。（席札の作成等）	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を開催した。 ・相談のあった方に対し、生活支援・社会参加情報サイト「市川支え合いネット」や「きょういくところ」等を使い、地域活動の場を紹介した。 ・生活支援サービスを提供する事業者に対し、「市川支え合いネット」を周知し、登録を働きかけた。
テーマ4 地域で行いたい新たな取り組み ～新規事業や新たな提案～	・新規地区社協事業 ・他団体との共催事業 ・他団体の応援・育成事業		・地区代表者連絡会で、他地区との情報交換を図るための働きかけを行った。	・地区社協と障がい者団体等が協働で行う交流イベントの支援を行った。（あいあい秋まつり） ・新規事業の取り組みについて会議等に参加し、準備等の支援を行った。	・新規事業の取り組みについて、会議等で情報共有を行った。

第5期わかちあいプラン 振り返りシート（令和6年度）

八幡地区社会福祉協議会

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	社協地区担当者、CSW の取り組み	行政（市川市）の取り組み
テーマ1 「お互いさま事業」の実施 ～身近な地域の支え合い～	・ お互いさま事業の具体化 ・ お互いさま事業の実施状況 ・ お互いさま事業の充実	【お互いさま事業】 ・ 会議において、地区内の困りごとを抱えた方のケースについて共有することができた。 【課題】 ・ 地区内で、具体的にどのようなことに困っているのか実情を把握することが必要である ・ 他地区の取り組みを参考に、八幡地区内での「お互いさま事業」の実施に向けて、方向性を協議する	・ コーディネーターに対する活動助成を行った。 ・ 地区代表者連絡会で、実施地区の取り組み状況の報告をしていただく等の調整を図った。	・ お互いさま事業について、会議等において実施地区の状況や圏域内の個別ケースからみる福祉課題の報告を行った。	・ 高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者がおり、地域での支えあい活動の醸成につながった。
テーマ2 てるぼサロン および 地区社協事業の拡充 ～“ふれあい”や “つながり”を育むために～	・ てるぼサロンの充実 ・ 地区社協事業の充実 ・ 担い手の確保 ・ 活動の場の確保	【てるぼサロン・地区社協事業について】 ・ 民間企業（メガロス等）や学校と協働し、地域のつながりや多世代交流を意識した事業を実施することができた。 ・ 福祉講演会に「市川市の歴史」を取り入れたことで、男性を中心とした地元の歴史に関心が高い新たな層の参加者へ向け地区社協事業のPRを行うことができた 【課題】 ・ てるぼサロンの周知方法（チラシ等）の工夫 ・ 今年度の各事業内容について検証し、見直しを行う ・ 民間企業（メガロス等）や学校等と協働し、今後も継続して事業を企画・実施していく ・ 小・中学校と連携し、地域との交流の機会をもつ ・ 健康体操の担い手確保と開催場所の増設を検討する ・ 地区社協事業に新規参加者を増やすための工夫をする（HPに写真や動画を活用）	・ 事業助成金とサロン助成金を各地区社協に對して行った。 ・ サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	・ てるぼサロン、地区社協事業の相談・調整・運営支援を行った。 ・ 新規サロン立ち上げについて相談を受け、調整を行った。 ・ 地区社協事業にて、参加者にアンケートを実施し、新たな担い手の確保に努めると同時に、その都度事業の見直しを行い情報共有した。	・ 高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者がおり、地域での支えあい活動の醸成につながった。 ・ 「地域活動応援制度」の活動場所を提供してもらえるように、事業者へ資料の送付を行った。
テーマ3 地域連携の強化 ～地域における 福祉課題の把握と対応～	・ 地域ケア拠点の充実 ※拠点の機能強化 ・ 相談員会議の充実 ※相談機能の強化 ※個別ケースの検討 ・ 地域ケアシステム推進連絡会の充実 ※地域における福祉課題の共有 ※団体間・関係機関との連携・協働	【地域ケア拠点の状況】 ・ 地域ケア拠点は月～金10～16時で開所している ・ 相談員が2名増員された ・ 相談員会議が2ヵ月に1回定期開催している ・ てるぼオアシス（ウォーターサーバー）の設置 ・ 令和6年度の合計件数 電話件数：422件 来所者数：1215名 相談件数：8件（電話4・来所4） 【地域ケアシステム推進連絡会の開催】 ・ 地域ケアシステム推進連絡会を年6回開催している ・ 地域住民（自治会、民生委員、子ども会、高齢者クラブ等）のほか、行政・高齢者サポートセンター・市社協が参加している ・ 地区活動を推進していくうえで、参加者へ研修の機会をつくる 【地域連携の強化】 ・ 地区内の横のつながりの連携の強化 【課題】 ・ 独居高齢者が増加している。独居高齢者をどのように地域で見守っていくか仕組みづくりが必要である ・ 地区内に空き家の問題があり、また訪問販売や空き巣等の被害も増えている。	・ 相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・ 地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携を図った。 ・ 社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないか相談・調整を行った。 ・ てるぼオアシス（ウォーターサーバー）設置に向け働きかけを行った。	・ 相談員会議を定期開催できるよう調整し、会議では拠点の実情把握等、相談員との連携を図った。 ・ 地域ケアシステム推進連絡会に参加し、地域の課題把握、情報の共有を行った。 ・ 地区内の民間企業や関係機関・団体へ会議開催について、連絡・調整を行い、連携を図った。 ・ てるぼオアシス設置のPRのため、他団体へ協力依頼した。 ・ 高サガ管理者・SCと定期的に会議を開催し連携を図った。	・ 主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を開催した。 ・ 相談のあった方に対し、生活支援・社会参加情報サイト「市川支え合いネット」や「きょういくところ」等を使い、地域活動の場を紹介した。 ・ 生活支援サービスを提供する事業者に対し、「市川支え合いネット」を周知し、登録を働きかけた。
テーマ4 地域で行いたい新たな取り組み ～新規事業や新たな提案～	・ 新規地区社協事業 ・ 他団体との共催事業 ・ 他団体の応援・育成事業	・ 小学校や民間企業、関係機関・団体と連携し、多世代交流ができる新規イベントを開催。 ・ 地域ケアが住民交流の場となるよう、活用方法について検討した。	・ 地区代表者連絡会で、他地区との情報交換を図るための働きかけを行った。	・ 市内の中心部に伴い、開催場所の確保に課題があったが、民間企業（メガロス）や小学校等と関係の構築に努め、多世代でも交流できる「場」を確保できるよう支援した。	・ 新規事業の取り組みについて、会議等で情報共有を行った。

第5期わかちあいプラン 振り返りシート（令和6年度）

市川東部地区社会福祉協議会

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	社協地区担当者、CSW の取り組み	行政（市川市）の取り組み
テーマ1 「お互いさま事業」の実施 ～身近な地域の支え合い～	・ お互いさま事業の具体化 ・ お互いさま事業の実施状況 ・ お互いさま事業の充実	【お互いさま事業】 ・ 令和7年4月より、2カ所の自治会にて実施となる。 【課題】 ・ 自治会内で、困りごとを抱えた方の把握 ・ 事業の周知方法 ・ コーディネーターや協力員の確保 ・ 運営方法の確立	・ コーディネーターに対する活動助成を行った。 ・ 地区代表者連絡会で、実施地区の取り組み状況の報告をしていただく等の調整を図った。	・ お互いさま事業の開始に向けて、各自治会にアンケートを実施し、説明を行った。 ・ 事業開始に向けて、運営方法ついて協議し、地区社協内で共有した。 ・ 圏域内の個別ケース等からみえる地域課題について、会議で報告し情報共有を行った。	・ 高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者がおり、地域での支えあい活動の醸成につながった。
テーマ2 てるぼサロン および 地区社協事業の拡充 ～“ふれあい”や “つながり”を育むために～	・ てるぼサロンの充実 ・ 地区社協事業の充実 ・ 担い手の確保 ・ 活動の場の確保	【てるぼサロン】 ・ 新規サロンが加わり、一般サロンが15ヶ所となった ・ チラシの配布により、参加者を増やすことができた ・ 住民のニーズに即したサロン内容で開催できた 【地区社協事業】 ・ 事業部会にて検討した結果、既存事業に加え、新たに「バスツアー」を企画実施できた ・ 多世代の方々に参加いただき、地域住民の交流の機会となった 【課題】 ・ サロンの開催場所に偏りがある ・ 各サロンの状況把握と周知が必要 ・ イベントの受付方法について検討する ・ 世代間交流ができる事業を引き続き検討する ・ 広報部を立ち上げ、事業周知	・ 事業助成金とサロン助成金を各地区社協に対して行った。 ・ サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	・ てるぼサロン、地区社協事業の相談・調整・運営支援を行った。 ・ 新規サロン立ち上げの支援を行った。 ・ サロンを継続するため、他機関と連携し、新たな担い手の確保に努めた。 ・ 地区社協事業の運営のサポートを行い、地域住民の交流の機会を設けた。	・ 高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者がおり、地域での支えあい活動の醸成につながった。 ・ 「地域活動応援制度」の活動場所を提供してもらえるように、事業者へ資料の送付を行った。
テーマ3 地域連携の強化 ～地域における 福祉課題の把握と対応～	・ 地域ケア拠点の充実 ※拠点の機能強化 ・ 相談員会議の充実 ※相談機能の強化 ※個別ケースの検討 ・ 地域ケアシステム推進連絡会の充実 ※地域における福祉課題の共有 ※団体間・関係機関との連携・協働	【地域ケア拠点の状況】 ・ 市川社協の「てるぼオアシス（ウォーターサーバー）」の設置に協力し、新しい方を含め地域住民の方が来所しやすい環境づくりを行った 【地域ケアシステム推進連絡会の開催】 各会議に行政関係、社協、高齢者サポートセンター、保健センター等の関係機関に参加していただき情報共有・連携を図った。 【課題】 ・ 地域ケアの役割について周知する ・ 相談ケースについての対応方法 ・ 地域課題を情報共有できるような開催方法の検討	・ 相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・ 地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携を図った。 ・ 社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないか相談・調整を行った。 ・ てるぼオアシス（ウォーターサーバー）設置に向け働きかけを行った。	・ 相談員会議では拠点の実情把握等、相談員との連携を図った。 ・ 地域ケアシステム推進連絡会に参加し、地域の課題把握、情報の共有を行った。 ・ てるぼオアシス（ウォーターサーバー）PRのため、施設へ協力依頼し、利用者の拡充を図った。 ・ 高サバ管理者・SCと定期的に会議を開催し連携を図った。	・ 主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を開催した。 ・ 相談のあった方に対し、生活支援・社会参加情報サイト「市川支え合いネット」や「きょういくところ」等を使い、地域活動の場を紹介した。 ・ 生活支援サービスを提供する事業者に対し、「市川支え合いネット」を周知し、登録を働きかけた。
テーマ4 地域で行いたい新たな取り組み ～新規事業や新たな提案～	・ 新規地区社協事業 ・ 他団体との共催事業 ・ 他団体の応援・育成事業	【新規事業】 「史跡めぐりバスツアー」を実施し、地域住民の交流を図ることができた。	・ 地区代表者連絡会で、他地区との情報交換を図るための働きかけを行った。	・ 新規地区社協事業の検討・実施に向け働きかけを行った。 ・ 地区内の地域資源発掘のため、関係機関と連携し活動した。	・ 新規事業の取り組みについて、会議等で情報共有を行った。

第5期わかちあいプラン 振り返りシート (令和6年度)

信篤・二俣地区社会福祉協議会

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	社協地区担当者、CSW の取り組み	行政（市川市）の取り組み
テーマ1 「お互いさま事業」の実施 ～身近な地域の支え合い～	・お互いさま事業の具体化 ・お互いさま事業の実施状況 ・お互いさま事業の充実	【令和6年度の成果・課題】 ・「お手伝い事業」として地域ケアで相談受付・対応 →件数は少ないものの、実績あり 【今後に向けて】 ・地域にある福祉課題の共有・確認 ・地区社協だけでなく、地域福祉に関する各関係団体の活動内容を共有・確認 →関係機関の連携・協働の仕組みづくり	・コーディネーターに対する活動助成を行った。 ・地区代表者連絡会で、実施地区の取り組み状況の報告をしていただく等の調整を図った。	・会議等において実施地区の状況、また圏域内の個別ケースからみる地域課題を情報共有した。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者がおり、地域での支えあい活動の醸成につながった。
テーマ2 てるぼサロン および 地区社協事業の拡充 ～“ふれあい”や “つながり”を育むために～	・てるぼサロンの充実 ・地区社協事業の充実 ・担い手の確保 ・活動の場の確保	【てるぼサロン】 ・令和6年度に「子育てサロン（みつばちキッズ）」承認。令和7年度よりスタート。 ・子育てサロンの参加者がふれあいルームに立ち寄るなど、相互交流が増えている。 ・「ふれあいルーム（てるぼサロン）」にて月1回ポッチャを開催。次年度より2ヶ月に1回、セミナー（勉強会等）も実施予定。 【地区社協事業】 ・「みつば食堂」「公民館文化祭（バザー）」「みつば祭り（共催）」「防災訓練（共催）」「ふれあいルーム（地域ケア信篤・二俣）」「地域ケア推進連絡会」「お手伝い事業」…等を実施 →事業・取り組みを広報し、多くの方に知らせていくことが大切（SNSの活用など）	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に對して行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	・てるぼサロン、地区社協事業の相談・調整・運営支援を行った。 ・新規サロンの立ち上げに向け支援を行った。 ・地区社協事業の実施にあたり、地区内の学校や施設等と協働できるよう、関係構築を図った。 ・サロン関係者からの相談を受け、周知活動の支援を行った。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者がおり、地域での支えあい活動の醸成につながった。 ・「地域活動応援制度」の活動場所を提供してもらえるように、事業者へ資料の送付を行った。
テーマ3 地域連携の強化 ～地域における 福祉課題の把握と対応～	・地域ケア拠点の充実 ※拠点の機能強化 ・相談員会議の充実 ※相談機能の強化 ※個別ケースの検討 ・地域ケアシステム推進連絡会の充実 ※地域における福祉課題の共有 ※団体間・関係機関との連携・協働	【地域ケア】 ・令和6年度の合計件数 電話件数：203件 来所者数：1,482名 相談件数：4件（電話3・来所1） ・てるぼオアシス（ウォーターサーバー）の設置 →てるぼサロン参加者の親子なども「ふれあいルーム」に立ち寄る契機になる 【地域ケアシステム推進連絡会】 ・2ヶ月に1回開催 →新たな参加団体が加わる。今後も多くの方や関係団体が参画し、情報共有・意見交換の場としていきたい 【相談員会議】 ・毎月開催 ・ふれあいルームに寄せられた相談・訪れた方の会話から、必要な関係機関につなげるなどの仕組みづくり →対応の検証と充実を引き続き目指す ☆引き続き、事業や地域の課題について、意見交換や情報共有の場としての資質向上を目指す	・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないか相談・調整を行った。 ・てるぼオアシス（ウォーターサーバー）設置に向け働きかけを行った。	・相談員会議では拠点の実情把握等、相談員との連携を図った。 ・ふれあいルームで相談員が把握した個別ケースについて、関係機関につなげる等支援を行った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に参加し、地域の課題把握、情報の共有を行った。 ・高サボ管理者・SCと定期的に会議を開催し連携を図った。	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を開催した。 ・相談のあった方に対し、生活支援・社会参加情報サイト「市川支え合いネット」や「きょういくところ」等を使い、地域活動の場を紹介した。 ・生活支援サービスを提供する事業者に対し、「市川支え合いネット」を周知し、登録を働きかけた。
テーマ4 地域で行いたい新たな取り組み ～新規事業や新たな提案～	・新規地区社協事業 ・他団体との共催事業 ・他団体の応援・育成事業	①買い物に困難な人の増加 →移動販売企業の参画、その他 ②交通の便に困難な人の増加 →実情把握と行政・企業・関係機関等への要望 ③防災・防犯の意識向上 →個人としての問題ではなく、地域課題として対応策の検討	・地区代表者連絡会で、他地区との情報交換を図るための働きかけを行った。	・買い物や移動についての地域課題に対して、実情の把握に努めると同時に、行政や関係機関等へ住民の意見や要望を収集し共有した。 ・移動販売の導入に向け、行政と自治会の調整を行った。	・新規事業の取り組みについて、会議等で情報共有を行った。

第5期わかちあいプラン 振り返りシート（令和6年度）

行徳地区社会福祉協議会

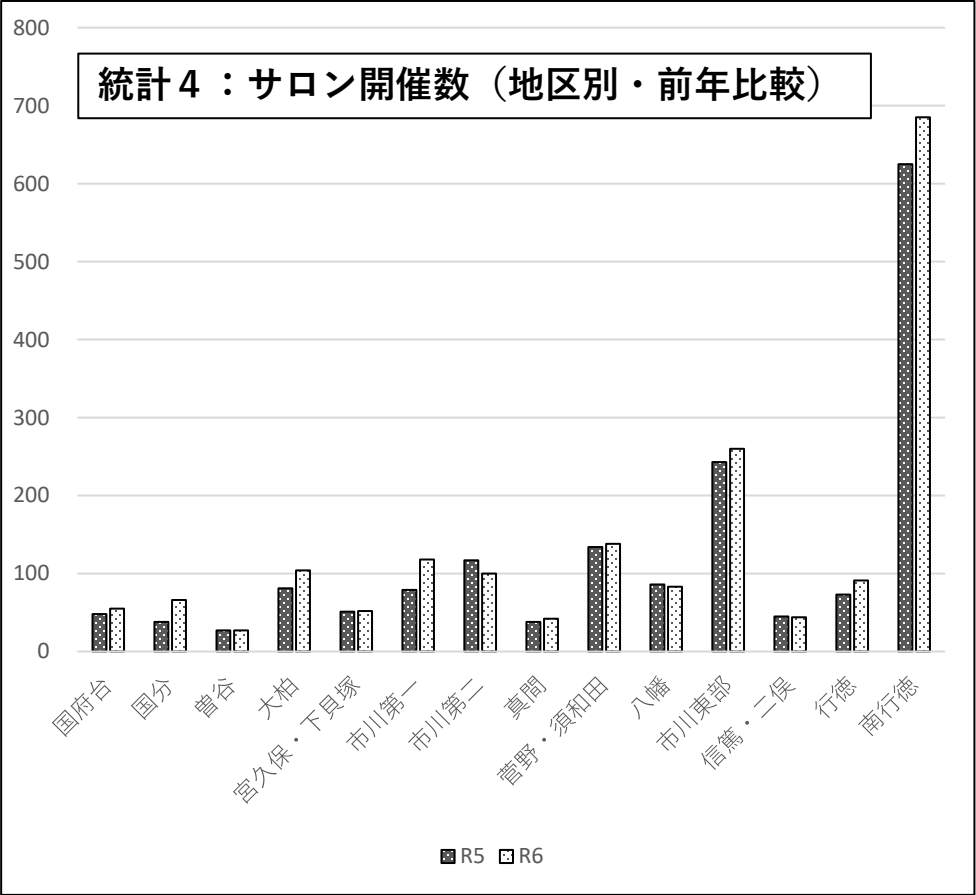
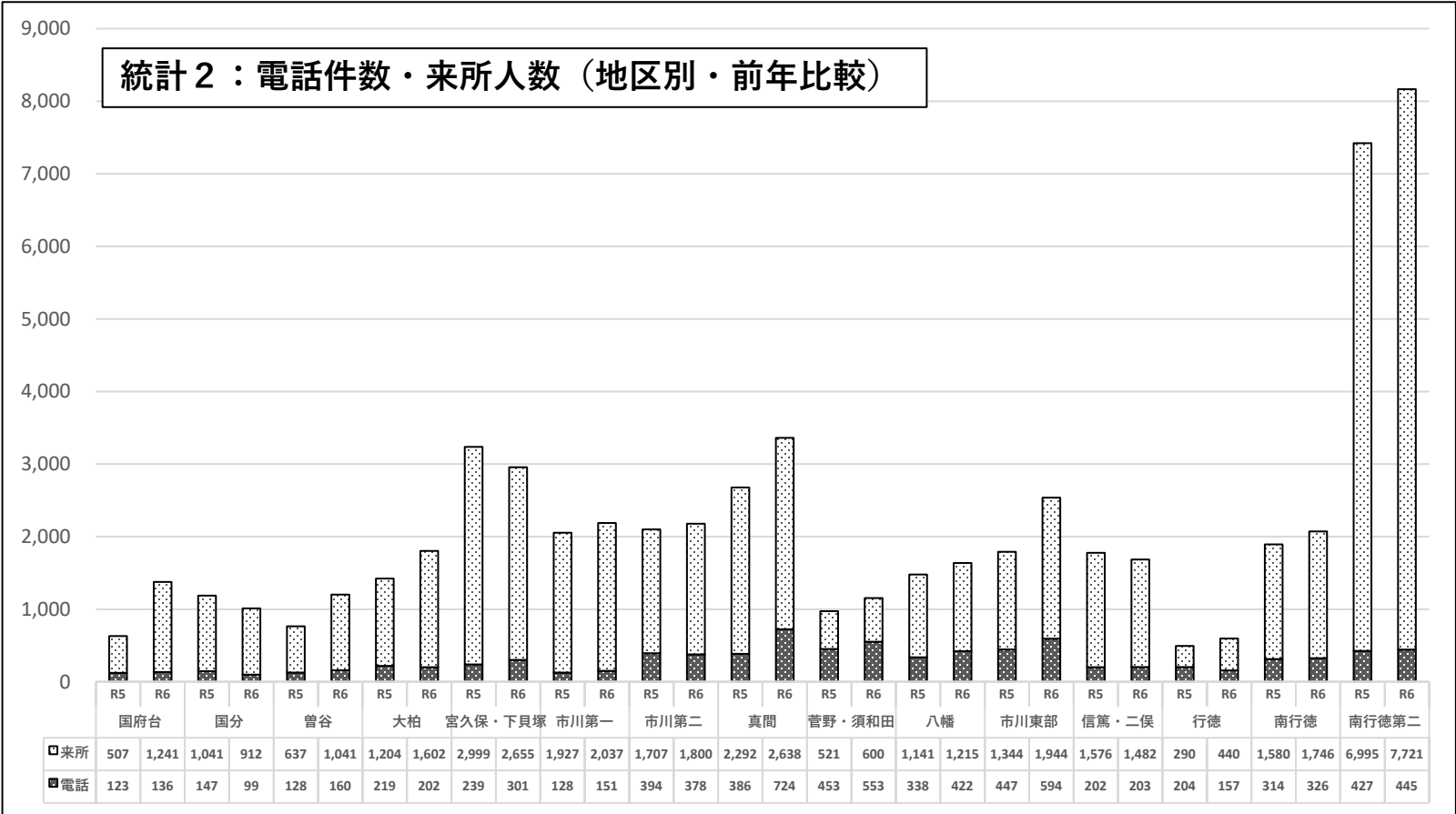
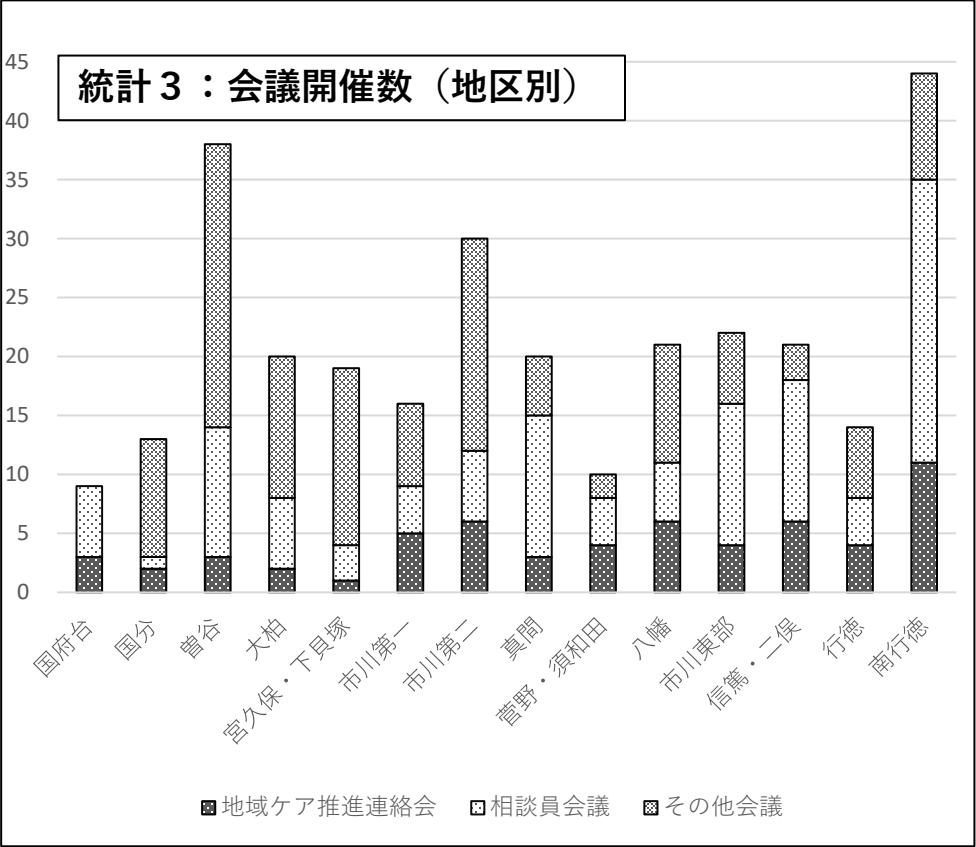
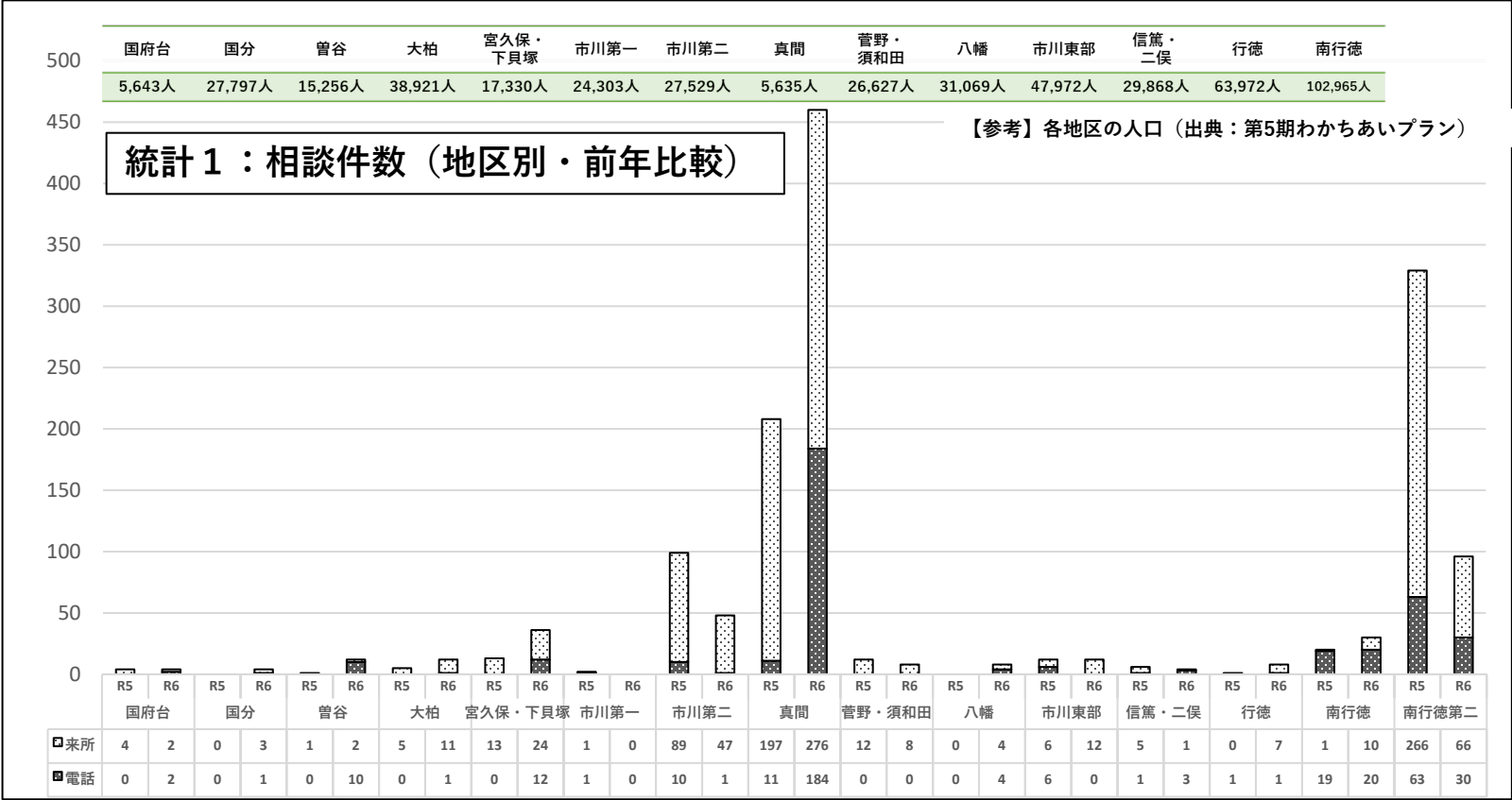
地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	社協地区担当者、CSW の取り組み	行政（市川市）の取り組み
テーマ1 「お互いさま事業」の実施 ～身近な地域の支え合い～	・お互いさま事業の具体化 ・お互いさま事業の実施状況 ・お互いさま事業の充実	・お互いさま事業の実証実験を行った (R7.2月～ ゴミ出し：1件) ・本格実施に向けた話し合いを実施した 【課題】 ・本格実施に向けた細かい手順等の協議が必要 ・周知活動の検討	・コーディネーターに対する活動助成を行った。 ・地区代表者連絡会で、実施地区の取り組み状況の報告をしていただく等の調整を図った。	・お互いさま事業実証実験のための資料作りの支援を行った。 ・個別ケースの訪問を行い、地域につなげた。 ・協力員の調整を行った。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者があり、地域での支えあい活動の醸成につながった。
テーマ2 てるぼサロン および 地区社協事業の拡充 ～“ふれあい”や “つながり”を育むために～	・てるぼサロンの充実 ・地区社協事業の充実 ・担い手の確保 ・活動の場の確保	【てるぼサロン】 ・新規サロン：3サロン新設された 【地区社協事業】 ・行徳ふれあいまつりでは様々な団体に協力を呼びかけ事業の充実を図った 【課題】 ・サロン活動の情報共有・周知が不足している	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に對して行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	・新規サロン立上げの支援を行った ・ベルマーク集計V活動者を募り、地域の協力者を確保した	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者があり、地域での支えあい活動の醸成につながった。 ・「地域活動応援制度」の活動場所を提供してもらえるように、事業者へ資料の送付を行った。
テーマ3 地域連携の強化 ～地域における 福祉課題の把握と対応～	・地域ケア拠点の充実 ※拠点の機能強化 ・相談員会議の充実 ※相談機能の強化 ※個別ケースの検討 ・地域ケアシステム推進連絡会の充実 ※地域における福祉課題の共有 ※団体間・関係機関との連携・協働	【地域ケア拠点機能の強化】 ・拠点レイアウトを変更し、来所しやすい環境づくりに努めた ・てるぼオアシス（ウォーターサーバー）を導入した 【地域ケアシステム推進連絡会】 ・年4回開催した ・団体の情報交換を行い、地域連携の推進を図った。 【相談員会議等】 ・年4回開催した ・各サロンの情報など情報共有を図った 【課題】 ・相談員が不足しているブロックがある ・会議等への参加関心を持ってもらうための関係性の構築が必要	・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないか相談・調整を行った。 ・てるぼオアシス（ウォーターサーバー）設置に向け働きかけを行った。	・てるぼオアシス設置のPRのため、公園利用者等へ声掛けを行った。 ・関係機関への会議開催について呼びかけ・調整を行った。 ・「line」アプリを活用し、グループlineにて会議出欠確認や、情報共有の支援を行った。	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を開催した。 ・相談のあった方に対し、生活支援・社会参加情報サイト「市川支え合いネット」や「きょういところ」等を使い、地域活動の場を紹介した。 ・生活支援サービスを提供する事業者に対し、「市川支え合いネット」を周知し、登録を働きかけた。
テーマ4 地域で行いたい新たな取り組み ～新規事業や新たな提案～	・新規地区社協事業 ・他団体との共催事業 ・他団体の応援・育成事業	【新規事業】 ・「つながろう会」を開催し、福祉委員の交流を図ることができた ・幸小PTAの支援として、ベルマーク集計ボランティア活動を拠点で実施した ・市社協が主催する「小中ボランティアスクール」のボランティア活動先として協力した 【課題】 ・拠点を利用した更なる地域活動の強化	・地区代表者連絡会で、他地区との情報交換を図るための働きかけを行った。	・よりそい出張相談に併せ、ベルマーク集計ボランティア活動者を募り、PTAとの連携支援と今後のサロン化に向けた支援を行った。	・新規事業の取り組みについて、会議等で情報共有を行った。

第5期わかちあいプラン 振り返りシート（令和6年度）

南行徳地区社会福祉協議会

地区別計画テーマ	キーワード	地域の取り組み	いちかわ社協の取り組み	社協地区担当者、CSW の取り組み	行政（市川市）の取り組み
テーマ1 「お互いさま事業」の実施 ～身近な地域の支え合い～	・お互いさま事業の具体化 ・お互いさま事業の実施状況 ・お互いさま事業の充実	・ライオンズマンション南市川にてお互いさま事業の相談窓口を開設した（R7.2月～、週1回） ・活動回数は減少したが、相談件数は増加し、訪問活動など活発に行った。 ※令和7年3月末現在の実績 協力員 54名 利用登録者 35名 活動回数 508回 【課題】 ・周知が全体的に不足している	・コーディネーターに対する活動助成を行った。 ・地区代表者連絡会で、実施地区の取り組み状況の報告をしていただく等の調整を図った。	・新規ケース等の訪問支援を行った。 ・個別ケースの対応支援を行った。 ・ライオンズマンション南市川お互いさま事業相談窓口の開設支援を行った。 ・市と共催で実施したボランティア講座において、お互いさま事業について説明し、協力員の確保に繋げた。 ・周知活動の支援を行った	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者があり、地域での支えあい活動の醸成につながった。
テーマ2 てるぼサロン および 地区社協事業の拡充 ～"ふれあい"や "つながり"を育むために～	・てるぼサロンの充実 ・地区社協事業の充実 ・担い手の確保 ・活動の場の確保	【てるぼサロン】 ・サロン数：25サロン ・新規サロン：5サロン ・子どもが参加できるサロンが新設された 【地区社協事業】 ・「ふれあい交流会」は地区内すべての小学校（7校）と交流することができた。参加の取りまとめ方法を再検討したことで、サロンや自治会からも参加者を募ることができた ・福祉委員バス研修を再開することができた 【課題】 ・周知が全体的に不足している	・事業助成金とサロン助成金を各地区社協に對して行った。 ・サロン活動支援講座、てるぼサロンまつりを実施した。	・新規サロンの立ち上げに向け支援を行った。 ・既存サロンの運営について支援を行った。	・高齢者のちょっとした困りごとを支援する人を養成し、担い手確保を促進するため、社協のボランティア養成講座とコラボした「生活支援サポーター養成研修」を実施した。修了者のうち、実際にボランティア活動に従事するようになった受講者があり、地域での支えあい活動の醸成につながった。 ・「地域活動応援制度」の活動場所を提供してもらえるように、事業者へ資料の送付を行った。
テーマ3 地域連携の強化 ～地域における 福祉課題の把握と対応～	・地域ケア拠点の充実 ※拠点の機能強化 ・相談員会議の充実 ※相談機能の強化 ※個別ケースの検討 ・地域ケアシステム推進連絡会の充実 ※地域における福祉課題の共有 ※団体間・関係機関との連携・協働	【地域ケア拠点機能の強化】 ・てるぼオアシス（ウォーターサーバー）を導入した 【地域ケアアシシステム推進連絡会】 ・年11回、開催することができた ・会議のレイアウト変更し、交流しやすい環境づくりに努めた 【相談員会議】 ・各拠点で受けた相談ケースの対応等について協議し、専門機関との情報交換を行った。 【課題】 ・一部エリアのブロック長・相談員の欠員及び補充 ・会議欠席者への情報共有 ・会議等への参加関心を持ってもらうための工夫が必要	・相談員会議に出席して拠点の実情把握等、連携を図った。 ・地域ケアシステム推進連絡会に出席し地域との連携を図った。 ・社協に入った地域住民からの個別相談に対して、状況に応じて、地域で解決できないか相談・調整を行った。 ・てるぼオアシス（ウォーターサーバー）設置に向け働きかけを行った。	・各会議に参加・助言を行った。 ・事業の様子などをわかりやすく共有できるよう、会議でプロジェクターを用いて写真を投影するなどして説明を行った。 ・会議での交流しやすい環境づくりの支援を行った。（席札の作成等）	・主に高齢者支援に関する地域課題の把握と解決に向けて、地域の多様な主体が参加する「地域ケア推進会議」を開催した。 ・相談のあった方に対し、生活支援・社会参加情報サイト「市川支え合いネット」や「きょういくところ」等を使い、地域活動の場を紹介した。 ・生活支援サービスを提供する事業者に対し、「市川支え合いネット」を周知し、登録を働きかけた。
テーマ4 地域で行いたい新たな取り組み ～新規事業や新たな提案～	・新規地区社協事業 ・他団体との共催事業 ・他団体の応援・育成事業	【新規事業】 ・富美浜ふれ愛フェスティバルの参加協力 ・あいあい秋まつりの参加協力 ・子ども法伝寺サロン（学習支援）の実施 【課題】 ・財源等が不足している団体や、地域活動に対し、地区社協として支援できる方法の検討 ・会議等の出席率向上から、各自治会等におけるサロン活動の活性化を図る	・地区代表者連絡会で、他地区との情報交換を図るための働きかけを行った。	・地区社協と障がい者団体等が協働で行う交流イベントの支援を行った。（あいあい秋まつり） ・新規事業の取り組みについて会議等に参加し、準備等の支援を行った。	・新規事業の取り組みについて、会議等で情報共有を行った。

地域ケアシステム推進に関する統計資料



1. アンケートの結果について

アンケートの結果

- 令和7年2月～6月にかけて実施
- 14地区229名より回答があった
- 各地区第2位までの課題をその地区の重点課題として太字表記
- 市内全域の共通課題としては以下のとおり
 - ①買い物に行くことが困難（国分・曾谷・大柏・宮久保下貝塚・市川第二・信篤二俣）
 - ②自分や家族の健康や病気のこと（国分・宮久保下貝塚・真間・八幡・南行徳）
 - ③治安・防犯に関すること（国府台・大柏・菅野須和田・八幡・信篤二俣・行徳・南行徳）
 - ④空き家やゴミ屋敷（国府台・国分・市川第二・菅野須和田・八幡・市川東部）
 - ⑤交通が不便（曾谷・大柏・市川第二・市川東部・信篤二俣）
 - ⑥ゴミ出し（市川第一・市川第二・菅野須和田・南行徳）
 - ⑦老後のこと（大柏・真間・南行徳）
- 共通課題には関連性がみられるものがある（①と⑤、②と⑦、③と④）

アンケートの結果の活用

- 令和6年度末から令和7年度初めにかけて実施した地区別重点課題についてのアンケート結果をもとに、各地域の課題を認識し、解決に向けた検討を行う
- アンケートで回答の多かった課題を取り上げ、全4回（2年間）で検討していく
 - 【第1回（令和7年度第1回地区推進会議）】
 - 全体の総括
 - ⑥ゴミ出し
 - 【第2回（令和7年度第2回地区推進会議）】
 - ①買い物に行くことが困難
 - ⑤交通が不便
 - 【第3回（令和8年度第1回地区推進会議）】
 - ②自分や家族の健康や病気のこと
 - ⑦老後のこと
 - 【第4回（令和8年度第2回地区推進会議）】
 - ③治安・防犯に関すること
 - ④空き家やゴミ屋敷

2. ゴミ出しについて

結果概要

- 229人中47人（20.5%）が課題と感じている
- 市川第一、市川第二、菅野・須和田、南行徳での課題感が高い一方、国府台、国分、曾谷、大柏、宮久保・下貝塚などでは低くなっている

ゴミ出しの課題についての具体的事例

- ①ゴミ収集場所が遠い・自宅前へのゴミステーションの設置を拒まれる
- ②引っ越してきた人と出し方や出す場所についてもめる
- ③外国人居住者のゴミ出しマナーが悪い
- ④通行人のゴミ捨て、指定袋不使用、曜日を守らないなど、マナーを守らない人がいる**
- ⑤ゴミ置き場が汚い**
- ⑥燃やすゴミの回収日が週2回から週3回に増えたことで回収時間が遅くなった
- ⑦高齢になると段ボール等のゴミ出しができない
- ⑧体力低下、身体上の理由でゴミ出しが困難な人が増えている

ゴミ出しについて地域住民としてできること

- ゴミステーションに市が作成しているパンフレット等を掲示し注意を促す（②③④）
- 相談があればゴミ出しを手伝える（⑦⑧）
- お互いさま事業や高齢者生活支援サポーターを案内する（⑦⑧）
- 地域と連携したボランティアを行う

ゴミ出しについての現状

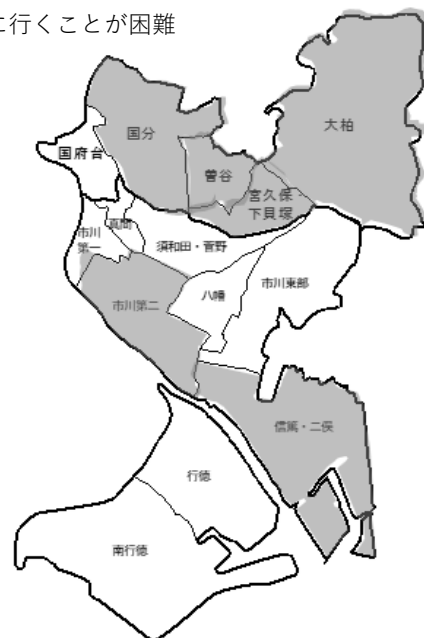
- 近隣住民の同意を得て14日前までに書類を提出することでゴミ収集場所の変更が可能（①）
- 転入手続きの際、全世帯にゴミ出しのガイドブックを配布（②）
- ゴミ出しに関するパンフレットを9ヶ国語作成して公式Webサイトに掲載（③）
- 公衆衛生や利便性の観点からの議論が必要（⑥）
- 高齢者や障がい者世帯のゴミを玄関前まで取りに行く支援を実施（⑦⑧）
- 高齢者生活支援サポーターがゴミ出しを支援（⑦⑧）
- お互いさま事業によるゴミ出し支援（⑦⑧）

<アンケート結果>

	国府台		国分		曾谷		大柏		宮久保・下貝塚		市川第一		市川第二		奥間		菅野・須和田		八幡		市川東部		信濃・二俣		行徳		南行徳		全地区合計		順位
	人数 内訳	7人 回答率	人数 内訳	17人 回答率	人数 内訳	12人 回答率	人数 内訳	10人 回答率	人数 内訳	15人 回答率	人数 内訳	27人 回答率	人数 内訳	28人 回答率	人数 内訳	10人 回答率	人数 内訳	23人 回答率	人数 内訳	19人 回答率	人数 内訳	21人 回答率	人数 内訳	18人 回答率	人数 内訳	16人 回答率	人数 内訳	6人 回答率	人数 内訳	229人 回答率	
1. 自分や家族の健康や病気のこと	2人	28.6%	7人	41.2%	4人	33.3%	2人	20.0%	6人	40.0%	6人	22.2%	1人	3.6%	4人	40.0%	5人	21.7%	9人	47.4%	3人	14.3%	3人	16.7%	2人	12.5%	3人	50.0%	57人	24.9%	②
2. 子育てに関すること	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	3.7%	1人	3.6%	0人	0.0%	2人	8.7%	2人	10.5%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	6人	2.6%	
3. ヤングケアラーに関すること	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	10.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	3.6%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	1人	0人	0.0%	0人	0.0%	4人	1.7%	
4. 家族関係に関すること	0人	0.0%	2人	11.8%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	2人	7.4%	1人	3.6%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	5人	2.2%	
5. 生活困窮	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	2人	13.3%	1人	3.7%	4人	14.3%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	5.3%	0人	0.0%	0人	0.0%	3人	18.8%	1人	16.7%	12人	5.2%	
6. 認知症の方の徘徊等	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	3人	20.0%	6人	22.2%	3人	10.7%	1人	10.0%	0人	0.0%	4人	21.1%	1人	4.8%	1人	5.6%	5人	31.3%	1人	16.7%	25人	10.9%	
7. 空き家やゴミ屋敷	4人	57.1%	7人	41.2%	4人	33.3%	2人	20.0%	3人	20.0%	7人	25.9%	2人	7.1%	0人	0.0%	8人	34.8%	6人	31.6%	5人	23.8%	0人	0.0%	3人	18.8%	0人	0.0%	51人	22.3%	④
8. ひきこもり	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	2人	20.0%	1人	6.7%	1人	3.7%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	5.3%	0人	0.0%	2人	11.1%	2人	12.5%	0人	0.0%	9人	3.9%	
9. ゴミ出し	0人	0.0%	2人	11.8%	1人	8.3%	1人	10.0%	2人	13.3%	8人	29.6%	10人	35.7%	1人	10.0%	6人	26.1%	4人	21.1%	3人	14.3%	3人	16.7%	4人	25.0%	2人	33.3%	47人	20.5%	⑥
10. 買い物に行くことが困難	1人	14.3%	9人	52.9%	6人	50.0%	3人	30.0%	8人	53.3%	5人	18.5%	6人	21.4%	1人	10.0%	5人	21.7%	3人	15.8%	4人	19.0%	4人	22.2%	4人	25.0%	0人	0.0%	59人	25.8%	①
11. 交通が不便	1人	14.3%	4人	23.5%	6人	50.0%	4人	40.0%	1人	6.7%	2人	7.4%	7人	25.0%	2人	20.0%	3人	13.0%	2人	10.5%	9人	42.9%	6人	33.3%	1人	6.3%	0人	0.0%	48人	21.0%	⑤
12. 治安・防犯に関すること	4人	57.1%	4人	23.5%	2人	16.7%	3人	30.0%	2人	13.3%	5人	18.5%	5人	17.9%	2人	20.0%	6人	26.1%	8人	42.1%	4人	19.0%	4人	22.2%	5人	31.3%	2人	33.3%	56人	24.5%	③
13. 老後のこと	3人	42.9%	2人	11.8%	1人	8.3%	4人	40.0%	2人	13.3%	5人	18.5%	4人	14.3%	3人	30.0%	3人	13.0%	3人	15.8%	3人	14.3%	3人	16.7%	4人	25.0%	2人	33.3%	42人	18.3%	⑦
14. 就労に関すること	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	4.3%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	0.4%	
15. 居場所に関すること	1人	14.3%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	6.7%	4人	14.8%	1人	3.6%	1人	10.0%	1人	4.3%	3人	15.8%	0人	0.0%	2人	11.1%	2人	12.5%	0人	0.0%	16人	7.0%	
16. 医療、福祉、介護に関する専門職について	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	6.7%	1人	3.7%	1人	3.6%	1人	10.0%	2人	8.7%	0人	0.0%	0人	0.0%	3人	16.7%	3人	18.8%	0人	0.0%	12人	5.2%	
17. その他	0人	0.0%	2人	11.8%	0人	0.0%	2人	20.0%	0人	0.0%	4人	14.8%	5人	17.9%	4人	40.0%	0人	0.0%	2人	10.5%	4人	19.0%	6人	33.3%	1人	6.3%	0人	0.0%	30人	13.1%	

<市内全域の共通課題>

1位
10.買い物に行くことが困難



2位
1.自分や家族の健康や病気のこと



3位
12.治安・防犯に関すること

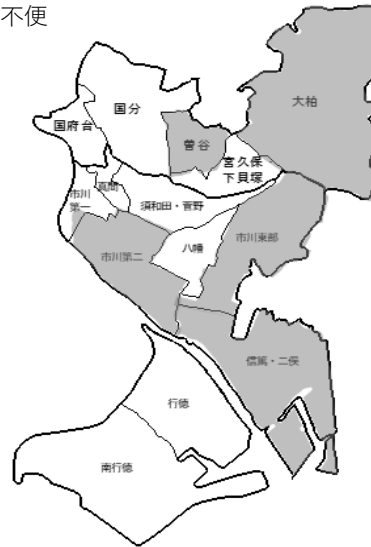


<市内全域の共通課題>

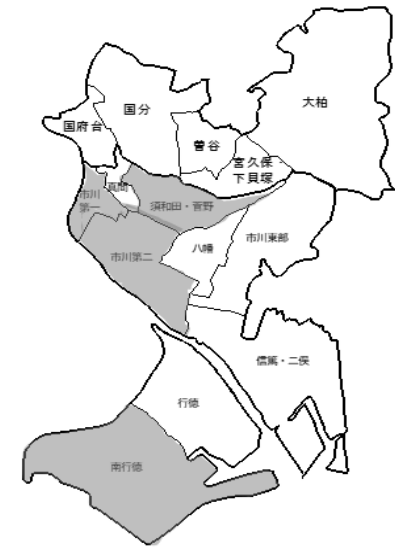
4位
7.空き家やゴミ屋敷



5位
11.交通が不便



6位
9.ゴミ出し



7位
13.老後のこと



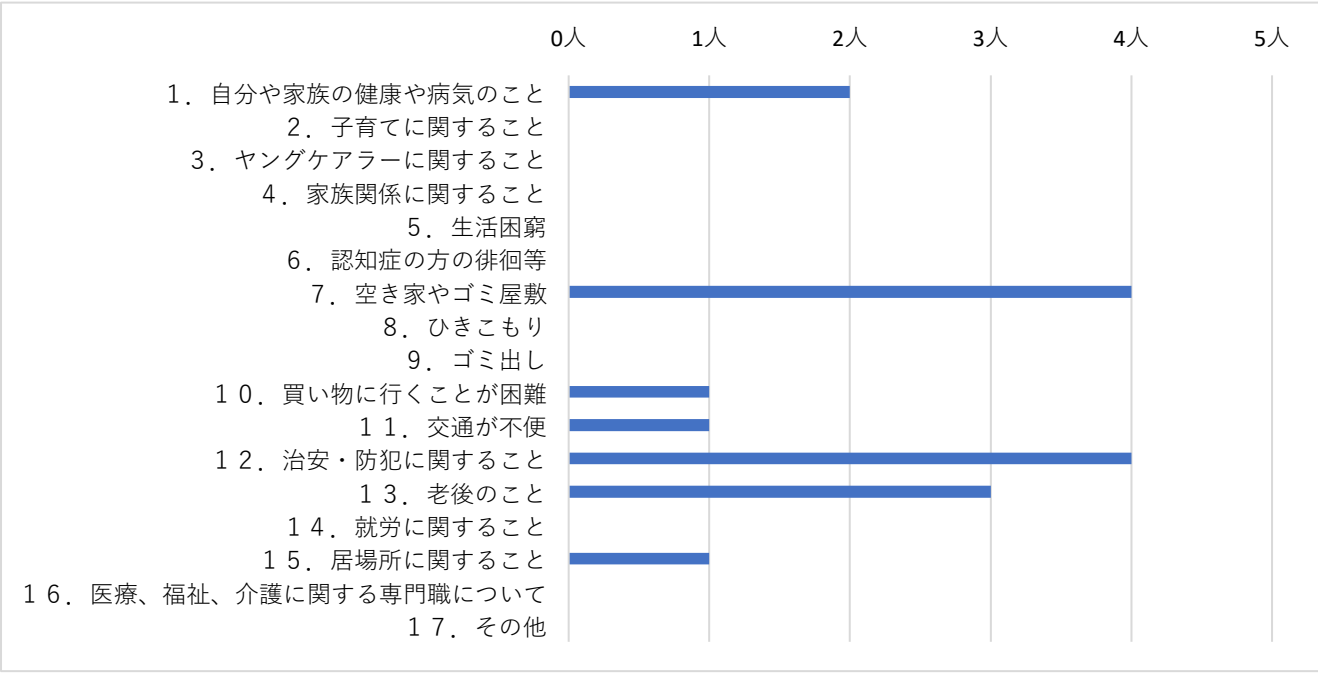
地区別重点課題について(国府台地区)

◆アンケート回答者数
7人

◆国府台地区の重点課題
空き家やゴミ屋敷
治安・防犯に関すること

◆アンケート結果詳細
「7. 空き家やゴミ屋敷」、「12. 治安・防犯に関すること」の回答者数が
最も多く4人、という結果だった。

1. 自分や家族の健康や病気のこと	2人
2. 子育てに関すること	0人
3. ヤングケアラーに関すること	0人
4. 家族関係に関すること	0人
5. 生活困窮	0人
6. 認知症の方の徘徊等	0人
7. 空き家やゴミ屋敷	4人
8. ひきこもり	0人
9. ゴミ出し	2人
10. 買い物に行くことが困難	1人
11. 交通が不便	1人
12. 治安・防犯に関すること	4人
13. 老後のこと	3人
14. 就労に関すること	0人
15. 居場所に関すること	1人
16. 医療、福祉、介護に関する専門職について	0人
17. その他	0人



◆具体的事例等

7. 空き家やゴミ屋敷	
具体的事例	地域住民としてできること
・空き家に草が生えたりしている。 ・ゴミ屋敷問題。家の奥までゴミが散乱し、近隣が迷惑している。 訪問、ポストへ手紙を投函したが家の住民には会えず1年が経過している。 ・近隣で植木の手入れがされず見通しが悪くなっていたり、大量の落ち葉で治安上の不安もある。 ・町会で桜の木、梅の木が成長し花びらや雑葉が生い茂っている所が2ヶ所ある。	・どのように手を差し伸べられるのかよく分からない。 危なくないように見守っている。 ・日々清掃をしているが、年を重ねて辛くなってきた。
12. 治安・防犯に関すること	
具体的事例	地域住民としてできること
・空き巣に入られた事件を聞き不安に思う話をされる方が多い。 ・今年の正月に空き巣狙いがあったと聞いたばかりで、近隣でも被害があったと聞いた。留守にすることが多いので不安を感じる。 ・知り合いの家がドアや窓をたたかれた。防犯ガラスのため、ヒビは入ったが侵入されなかった。 ・去年から近隣で空き巣らしき様子が数件あり、ガラスを割られた事件があって以来、警察の巡回の回数が増えている。 ・車にくぎを刺してパンクさせる悪質なことがあり、防犯対策として防犯カメラを買って備えている。	・警察や町会関係の方々のパトロールを見かけた時は心強く感じ安心する。是非続けていただきたい。 ・空き巣に入られた知り合いは、気持ちが落ち着いた頃に防犯意識が甘かったと、防犯グッズを買い求めたとのこと。我が家も防犯意識を高め、不安から抜け出す小さな一歩を踏み出した。 ・近隣への声掛け、居住地域に関心を持つ。 ・地域の人々がお互いを気にかけてながら過ごす。 ・民生委員として、自分自身も見守りを強化したいと思った。

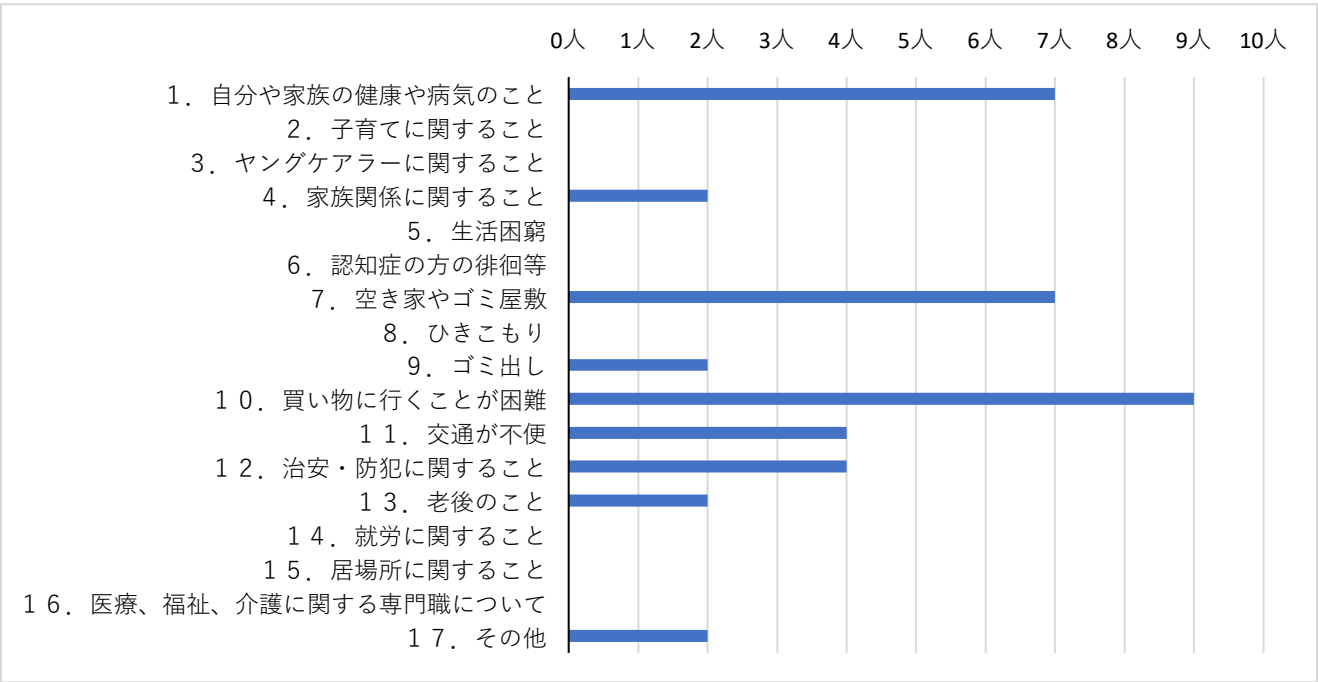
地区別重点課題について(国分地区)

◆アンケート回答者数
17人

◆国分地区の重点課題
買い物に行くことが困難
自分や家族の健康や病気のこと
空き家やゴミ屋敷

◆アンケート結果詳細
「10. 買い物に行くことが困難」の回答者数が最も多く9人、次いで
「1. 自分や家族の健康や病気のこと」、「7. 空き家やゴミ屋敷」の回答者数が7人といった結果
だった。

1. 自分や家族の健康や病気のこと	7人
2. 子育てに関すること	0人
3. ヤングケアラーに関すること	0人
4. 家族関係に関すること	2人
5. 生活困窮	0人
6. 認知症の方の徘徊等	0人
7. 空き家やゴミ屋敷	7人
8. ひきこもり	0人
9. ゴミ出し	2人
10. 買い物に行くことが困難	9人
11. 交通が不便	4人
12. 治安・防犯に関すること	4人
13. 老後のこと	2人
14. 就労に関すること	0人
15. 居場所に関すること	0人
16. 医療、福祉、介護に関する専門職について	0人
17. その他	2人



◆具体的事例等

10. 買い物に行くことが困難	
具体的事例	地域住民としてできること
・道が悪く車が多い。 ・地域に店舗が皆無のため、高齢者は歩いて行くのは無理。 ・遠い所まで買物に行くのが困難。 ・具合が悪い時は買い物へ行けない。 ・歩いてスーパーへ行くことが困難。 ・ひざが痛く歩行が困難な時がある。 ・高齢に伴い、歩行に支障があり、スーパーに行けない。 ・独居老人近所に店舗が無い。歩行が困難である。 ・高齢で一人暮らしの方は店が遠く大変そう。 ・高齢者がゆっくりの歩行で買い物に1時間くらいかかる。 まわりの住民から危ないので何とかできないかと連絡があり ケアマネに相談したところ、検討中とのことだった。	・近くの方であれば送り届けることができる。 ・タクシーを利用される場合、一緒に同行できる ・週に1, 2回くらい小型車の行商があればいい。 ・宅配等のサービスを利用するよう勧めている。 ・買い物代行をした。
1. 自分や家族の健康や病気のこと	
具体的事例	地域住民としてできること
・健康が不安。 ・日に日に体調が悪くなっていく。 ・家族がある日突然大病を患い入院などしてしまうと 非常に困ったことになってしまうと思う。 ・毎日病院に通っている。何もする気力が起きない。 人に会いたくない。 ・寝つきが悪く薬を服用しているがめまいがしてふらつく。 耳鼻科に行って薬を処方してもらっている。 ・夫婦で高齢になり、元気でいられる様いろいろ話し合っている。 ・70才のご夫婦の方で奥様ががんになり、お薬を飲みながら 生活している。ご主人が元気なので助かっている。	・病院を紹介したり一緒に調べることはできる。 ・スポーツや体操など近くに行ける場所があるといい。 ・散歩等心掛けている。 ・近所の方の体調などお聞きして、何かお手伝いする ことがあったら言ってくださいと伝える。 くだものや好みの食べ物を差し入れている。
7. 空き家やゴミ屋敷	
具体的事例	地域住民としてできること
・何十年も放置されている空家が、地域に何軒かある。 ・周囲にめいわくをかける。小動物が住む。火災が心配。 ・空き家に人が入っていた事がある。 ・空き家の庭木が伸びてきて困っていると近所から相談。 ・雑草、樹木、ねずみ、ヘビ、など被害。隣地の樹木。 ・空き地に廃棄物が放置されているが、 個人の土地の中であり、どうしようもなく困る。	・廃屋でない空き家をサロンに利用できないか。 ・空地の隣の方からの依頼で、草が伸び放題のため、 除草剤をまいて草を取り除いている。

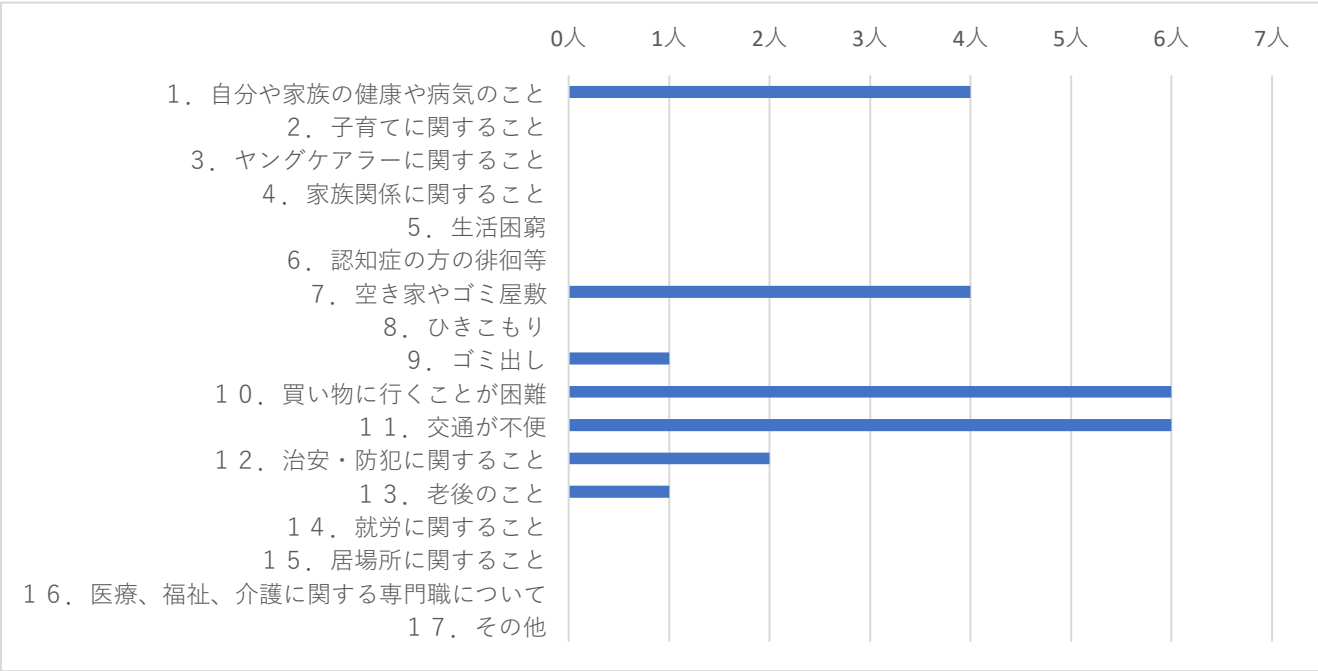
地区別重点課題について(曾谷地区)

◆アンケート回答者数
12人

◆曾谷地区の重点課題
買い物に行くことが困難
交通が不便

◆アンケート結果詳細
「10. 買い物に行くことが困難」、「11. 交通が不便」の回答者数が最も多く、6人といった結果だった。

1. 自分や家族の健康や病気のこと	4人
2. 子育てに関すること	0人
3. ヤングケアラーに関すること	0人
4. 家族関係に関すること	0人
5. 生活困窮	0人
6. 認知症の方の徘徊等	0人
7. 空き家やゴミ屋敷	4人
8. ひきこもり	0人
9. ゴミ出し	1人
10. 買い物に行くことが困難	6人
11. 交通が不便	6人
12. 治安・防犯に関すること	2人
13. 老後のこと	1人
14. 就労に関すること	0人
15. 居場所に関すること	0人
16. 医療、福祉、介護に関する専門職について	0人
17. その他	0人



◆具体的事例等

10. 買い物に行くことが困難	
具体的事例	地域住民としてできること
・店が少ない。 ・スマホやPCで注文ができない人は買い物に出かけないといけないが、近くに移動販売が週1で来るので喜んでいた。 ・徒歩圏にスーパー等大型、中型商業施設が少ない。 ・スーパーまで徒歩で20分以上かかる。 ・足が不自由で、買い物の品が重くて大変。 ・近くにコンビニはあるがスーパーがないため、買い物難民が増えると思っていたため、ウエルシア移動販売は助かる。	
11. 交通が不便	
具体的事例	地域住民としてできること
・バス停までも遠く、駅までは歩きで40分は掛かる。 ・バスの便数が少ない。特に8時10分台がない。 ・住居エリアによるがバス停が遠い、バスの本数が少ない。 ・歩けない方、車で送迎できる人がいない方はタクシーを利用しないと通院もできない。割引券を出してもらえると良い。 ・本八幡方面、市川方面に出るための公共交通はバスになる。バス停までの道のりが大変になった方も増えている。1日に数回ミニバスがあると年配者の動きが広がるのではないか。	・ミニバスを通して欲しい。

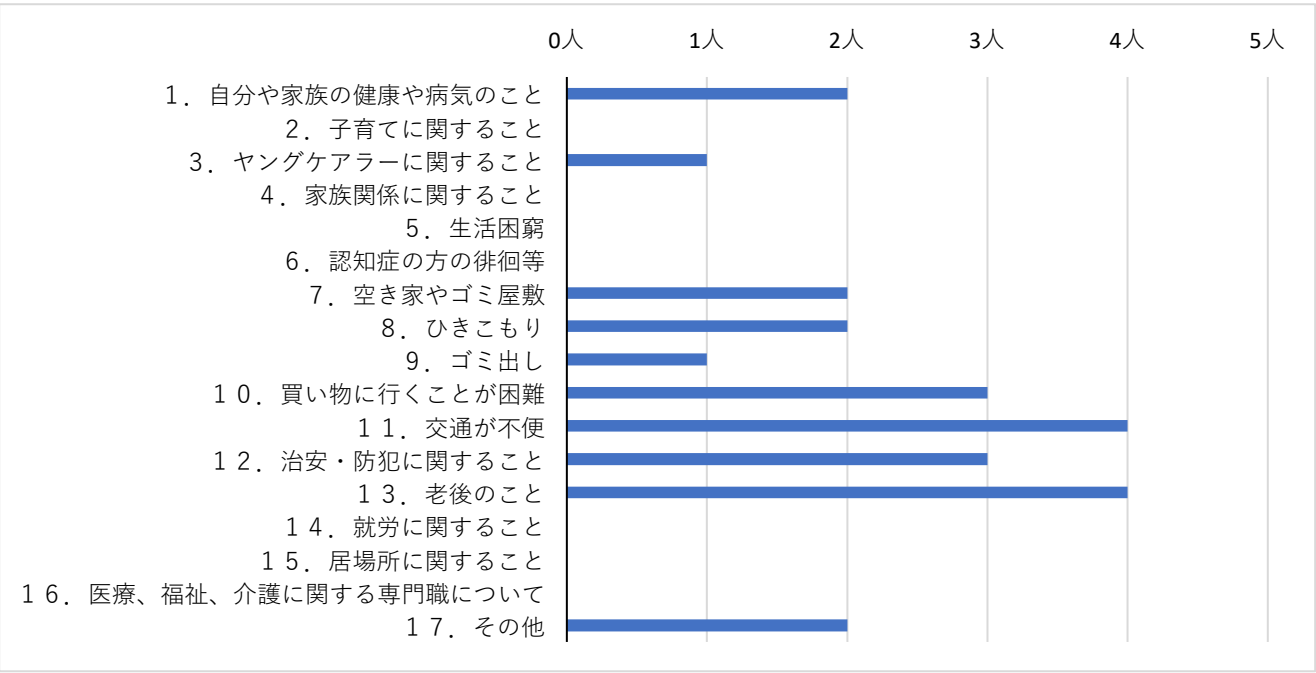
地区別重点課題について(大柏地区)

◆アンケート回答者数
10人

◆大柏地区の重点課題
交通が不便
老後のこと
買い物に行くことが困難
治安・防犯に関すること

◆アンケート結果詳細
「11. 交通が不便」「13.老後のこと」の回答者数が最も多く4人、次いで
「10. 買い物に行くことが困難」、「12. 治安・防犯に関すること」の回答者数が2人といった結果だった。

1. 自分や家族の健康や病気のこと	2人
2. 子育てに関すること	0人
3. ヤングケアラーに関すること	1人
4. 家族関係に関すること	0人
5. 生活困窮	0人
6. 認知症の方の徘徊等	0人
7. 空き家やゴミ屋敷	2人
8. ひきこもり	2人
9. ゴミ出し	1人
10. 買い物に行くことが困難	3人
11. 交通が不便	4人
12. 治安・防犯に関すること	3人
13. 老後のこと	4人
14. 就労に関すること	0人
15. 居場所に関すること	0人
16. 医療、福祉、介護に関する専門職について	0人
17. その他	2人



◆具体的事例等

11.交通が不便	
具体的事例	地域住民としてできること
・大柏出張所、病院へ行くのに不便。 ・高齢になり免許を返納した。通院は足元も不安な中、乗り換えも多い。タクシーの予約も難しく負担が大きい。 ・バス、京成やコミュニティバスの便が減り困る。 75歳からの補助券、バス、タクシーもう少し枚数を増やして欲しい。市役所にも聞いたことがある。 ・タムス市川病院からの帰りのバスがない。 ・市川総合病院への直通バスが少ない。	・時間がある時に限られるが、車に乗せて連れていく。 ・市からのゴールドシニアのチャシを渡した。
13.老後のこと	
具体的事例	地域住民としてできること
・高齢者のお金の管理、自分自身今後どうすべきか課題。地域で説明会を開催してはどうか。 ・高齢者夫婦だけの家庭が増えてきて、何かあった時に子供たちへの連絡が心配になる。	・サロンでの説明会を提案する。
10. 買い物に行くことが困難	
具体的事例	地域住民としてできること
・近くにスーパー等の店がないこと。 ・車で行く事ができなくなったため、困難。	
12. 治安・防犯に関すること	
具体的事例	地域住民としてできること
・自治会役員の見まわりが月1回という現状。 不審者等、個別訪問の事例があれば自治会長から警官のパトロールを依頼している。 ・防犯に対し、庭木や家まわり、家の中の対策には高齢になると身体の不都合、金銭面やさまざまな相談をする人がいない。	・時々夜8時頃家の近辺を見まわってみる。 ・ホームセンターで買い物を手伝った。

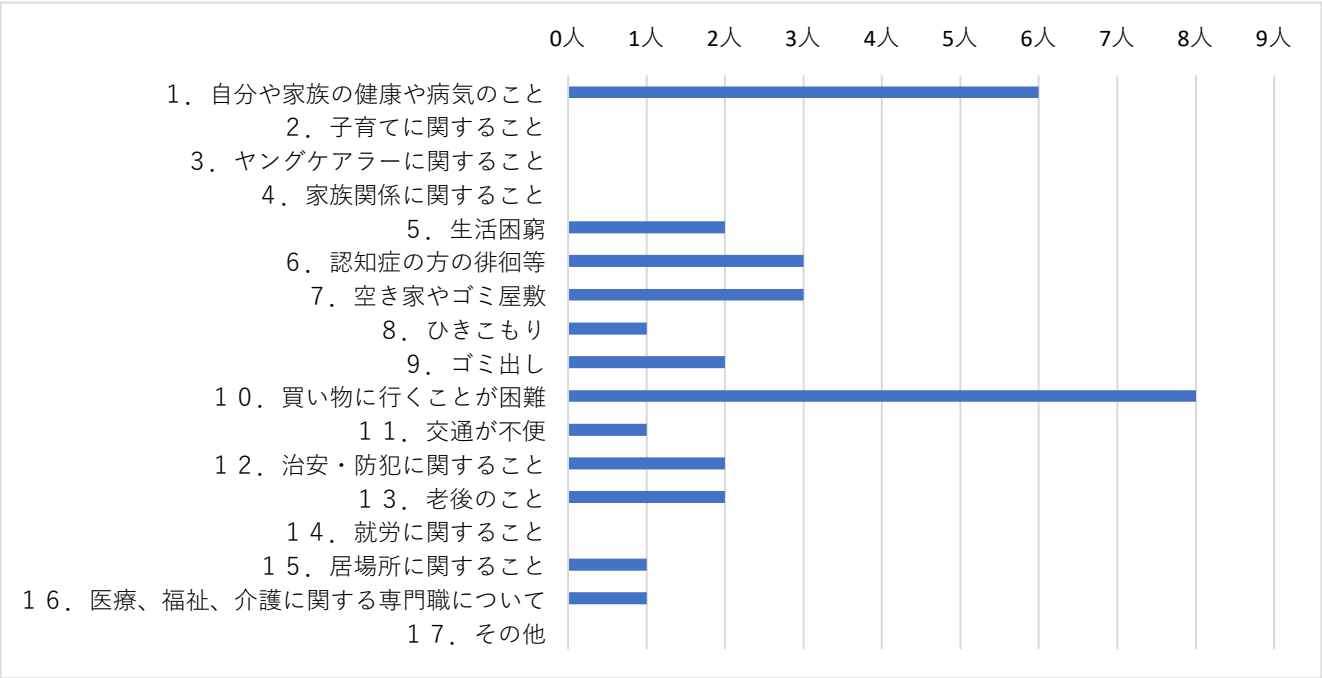
地区別重点課題について(宮久保・下貝塚地区)

◆アンケート回答者数
15人

◆宮久保・下貝塚地区の重点課題
買い物に行くことが困難
自分や家族の健康や病気のこと

◆アンケート結果詳細
「10. 買い物に行くことが困難」の回答者数が最も多く8人、次いで
「1. 自分や家族の健康や病気のこと」の回答者数が6人といった結果だった。

1. 自分や家族の健康や病気のこと	6人
2. 子育てに関すること	0人
3. ヤングケアラーに関すること	0人
4. 家族関係に関すること	0人
5. 生活困窮	2人
6. 認知症の方の徘徊等	3人
7. 空き家やゴミ屋敷	3人
8. ひきこもり	1人
9. ゴミ出し	2人
10. 買い物に行くことが困難	8人
11. 交通が不便	1人
12. 治安・防犯に関すること	2人
13. 老後のこと	2人
14. 就労に関すること	0人
15. 居場所に関すること	1人
16. 医療、福祉、介護に関する専門職について	1人
17. その他	0人



◆具体的事例等

10. 買い物に行くことが困難	
具体的事例	地域住民としてできること
・買い物に行くのが大変、場所が遠い、坂がある。 ・スーパーが遠いので年齢とともに買い物が大変になる。特に重いものを買うときが大変。良い方法があるか？ ・暑い時期の買い物が大変。熱中症になり何度か倒れた。 ・足腰が弱まっているので、荷物を持って歩くのが大変。 ・スーパーはいくつかありますが、どこも坂道の上り下りが必要。年とともに買い物が大仕事になっている。 ・車の運転を辞めたため、買い物が大変。 ・近くにスーパー、コンビニがない。 ・買い物難民である。	・行政への橋渡し。 ・移動販売が1年前から始まり喜んでいる。 ・移動販売、ネット販売等を知らせ利用できると良い。
1. 自分や家族の健康や病気のこと	
具体的事例	地域住民としてできること
・家族の病院送迎が心配。 ・健康で和やかな家庭が一番の幸せだと思う。 ・年齢とともに身体が動かなくなっていく焦りがある。 ・ご近所の老々介護の夫婦が施設を3か月で出なければならず次が見つかるか心配していた。 ケアマネジャーの力量に差があるように感じる。 ・自分、子どもともに年齢を重ねると健康が心配。	・介護が大変なことに対し共感し、愚痴を聞く。 疲れていたら買い物や料理の手伝いはできる。

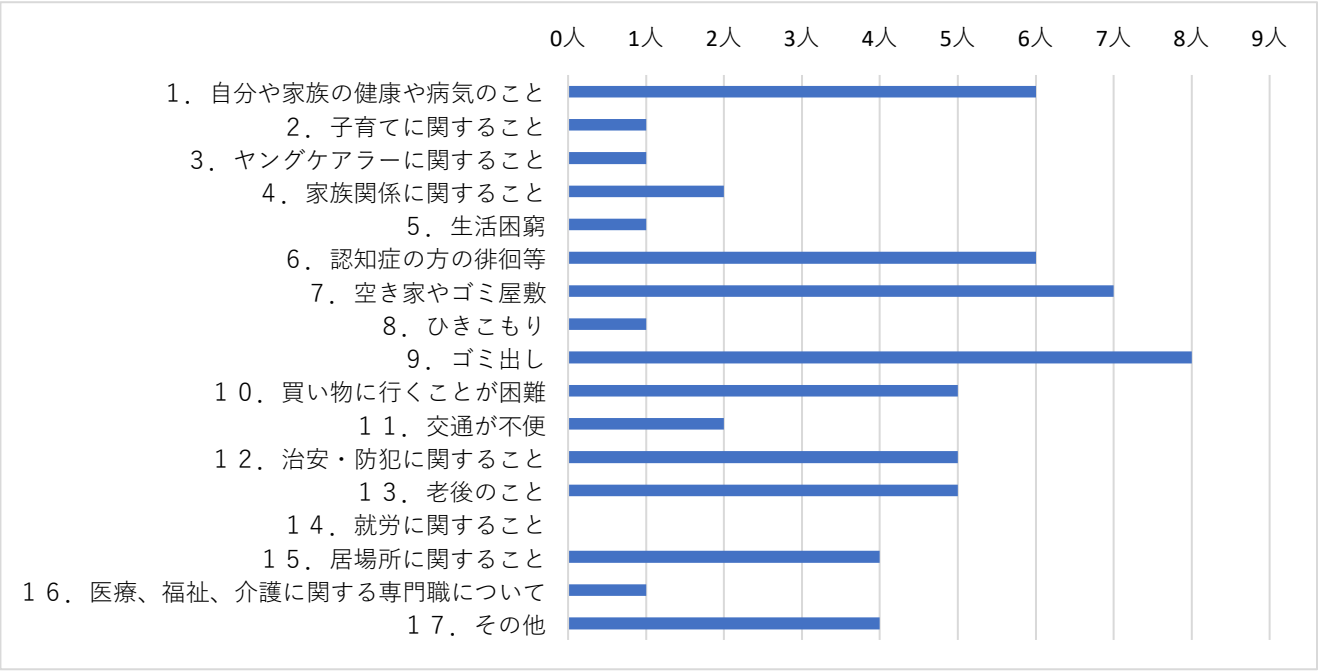
地区別重点課題について(市川第一地区)

◆アンケート回答者数
27人

◆市川第一地区の重点課題
ゴミ出し
空き家やゴミ屋敷

◆アンケート結果詳細
「9. ゴミ出し」の回答者数が最も多く8人、次いで
「7. 空き家やゴミ屋敷」の回答者数が7人といった結果
だった。

1. 自分や家族の健康や病気のこと	6人
2. 子育てに関すること	1人
3. ヤングケアラーに関すること	1人
4. 家族関係に関すること	2人
5. 生活困窮	1人
6. 認知症の方の徘徊等	6人
7. 空き家やゴミ屋敷	7人
8. ひきこもり	1人
9. ゴミ出し	8人
10. 買い物に行くことが困難	5人
11. 交通が不便	2人
12. 治安・防犯に関すること	5人
13. 老後のこと	5人
14. 就労に関すること	0人
15. 居場所に関すること	4人
16. 医療、福祉、介護に関する専門職について	1人
17. その他	4人



◆具体的事例等

9.ゴミ出し	
具体的事例	地域住民としてできること
・高齢者宅で困ることが多い。誰か代わりにやって欲しいとの声をよく聞く。 ・ゴミ収集場所の増設要望がある。 ・江戸川堤が近く、通行人でゴミを捨てる方がいる。役員がゴミの分別等対応している。 ・不法投棄等マナーを守らない方が約1割いる。困り果てている。 ・近所でゴミ置きが汚いところがある。 ・健康上の問題や体力が落ちたことにより、ゴミを出せない方がいる。 ・週3回の燃やすゴミ回収になってから、朝の回収時間が遅くなり、カラスの被害が絶えない。清掃も大変なので、週2回の回収に戻して欲しい。	・地域と連携したボランティア。お互い様事業。地域学生との連携強化。 ・市の清掃事業課に相談。 ・ゴミの分別を役員が対応している。 ・近所の1人で歩けなくなった方は、ヘルパーさんが前日に玄関にゴミ袋を用意してくれ、朝それを出している。(週1回) ・ひたすら清掃するしかない。
7.空き家やゴミ屋敷	
具体的事例	地域住民としてできること
・住民のいない家が目立つ。放置された家の周りが汚れている。 ・20年以上の空き家もあり、防犯・防災両面で心配。 ・ゴミ屋敷に近い、家主が時々来ている。不在が多いので心配。 ・空き地(地主不明)の木が茂り、落ち葉が落ちてくる。木の幹が太くなり、ブロック塀を持ち上げている。 ・ゴミ屋敷になっている家について、近隣住民から町会に相談があった。家の住人は他の場所に住んでおり、たまにやってくるが片付ける気はない。高サボや市に相談したが現状変わらない。 ・隣家が空き地になっており、大きな樹が生えていて落ち葉や根が伸びて敷地内へ入ってくる。通行人がゴミを捨てていく等で困っている。所有者(相続者)も不明。 ・玄関が見えた時、部屋の中にチラシが散乱していた。	・市の担当部署へ繋ぐ。 ・ゴミでも私有地にあり、私有物のため他人が手を出せない。 ・個人の所有権問題があり、市は関与してくれないので困っている。土地の所有者が分からない、法務局で調べても既に死亡、相続手続きをしていない。 ・相談より町会で取り組んでみたが、結局個人の権利で行政も手が出せない。私自身がすることはない。 ・家宅侵入はできないので、大きなゴミを端に寄せるくらいで特にやれることはない。

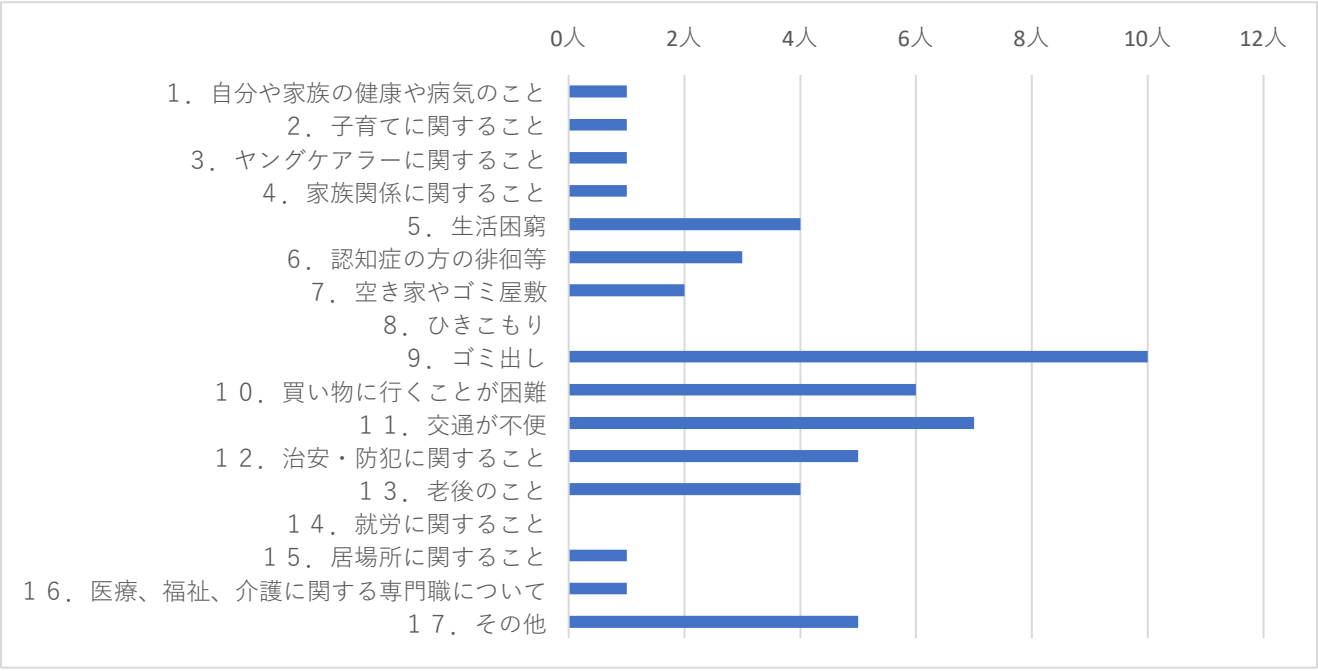
地区別重点課題について(市川第二地区)

◆アンケート回答者数
28人

◆市川第二地区の重点課題
ゴミ出し
交通が不便
買い物に行くことが困難

◆アンケート結果詳細
「9. ゴミ出し」の回答者数が最も多く10人、次いで
「11. 交通が不便」の回答者数が7人、「10. 買い物に行くことが困難」の
回答者数が6人といった結果だった。

1. 自分や家族の健康や病気のこと	1人
2. 子育てに関すること	1人
3. ヤングケアラーに関すること	1人
4. 家族関係に関すること	1人
5. 生活困窮	4人
6. 認知症の方の徘徊等	3人
7. 空き家やゴミ屋敷	2人
8. ひきこもり	0人
9. ゴミ出し	10人
10. 買い物に行くことが困難	6人
11. 交通が不便	7人
12. 治安・防犯に関すること	5人
13. 老後のこと	4人
14. 就労に関すること	0人
15. 居場所に関すること	1人
16. 医療、福祉、介護に関する専門職について	1人
17. その他	5人



◆具体的事例等

9. ゴミ出し	
具体的事例	地域住民としてできること
・ゴミステーションが遠く、近隣住民との関係も薄く困っている高齢者が多い。 ・ゴミ出しの場所が少し離れており、行くまでも交通が激しく困っていた。町会長が町会・高サポ・行政に働きかけ、無事解決した。 ・ゴミステーションの場所、ゴミの出し方にクレームがある。 ・指定ゴミ袋に入れず、ポイ捨てがある。大型ゴミもほったらかし。 ・高齢になると段ボール等のゴミ出しができない。 ・新しいマンションができ、ゴミ捨て場の確保に問題が生じている。住民の声が届き、回答が出るまでに時間がかかる。 ・外国人居住者のゴミ出しマナーが悪い(分別・ゴミを出す曜日)との苦情がある。近所の方で対応しているが、改善されない。 ・庭木を伐採、大量の枝葉をゴミに出したが回収されなかった。 ・ゴミ出し時、エレベーターに乗ることが苦痛に感じる。	・地域住民の声を反映したゴミステーションの新設。 ・近隣の方なら手伝える。 ・独居の方は会う機会もなく、情報が集まりにくい。町会や民生委員に気軽に相談があると手伝える。 ・清掃事業課と連絡を取り、カゴを設置、注意を促す張り紙を作成した。 ・自治会から役所へ連絡してもらっている。 ・もう少し市が市民の声に耳を傾けて欲しい。会議に参加しているがまとめることに難しさを感じている。 ・該当地区の理事が外国人居住者に対応している。 ・ゴミステーションに市作成のゴミ出しパンフレットを掲示する。 ・お互い様事業等の利用。地域の方に知ってもらう。
11. 交通が不便	
具体的事例	地域住民としてできること
・地域高齢化社会になり、買い物等が困難。買い物はJR本八幡付近が中心だが、バス停までの距離もあり大変。 ・徒歩しか移動手段がない。高齢のため歩くのが困難な方が多い。タクシーを使うにも台数が少なくなかなか来ない。 ・市役所に用事があっても14号にはバスもなく、歩くこともできない。チケット75の枚数をもう少し増やして欲しい。 ・稲荷木地区の方が「ここは孤立している」「どこへ行くにも不便」との声が多い。 ・バスがなく、タクシーを呼んでもつかまらないことが多い。 ・高齢者にとってバスを利用する機会が少ない。タクシーを呼ぶのも大変。直ぐ来てくれない。 ・市川駅、本八幡駅へ行くにも歩けない方はタクシーを呼ぶ必要がある。	・個人的にできることはないが、コミュニティバス等安価な運賃で運行して欲しい。 ・チケット75の提案。 ・交通の便が悪いとサロンに誘うこともできない。行政に事情を伝える。 ・ずっと前にバスが廃止。なかなかタクシーもつかまらず、いつまでも手をあげ、便利なようで不便な地域。
10. 買い物に行くことが困難	
具体的事例	地域住民としてできること
・近くにスーパーがなく、バス等を使わなくてはならない。バス利用できない人が買い物難民になっている地域がある。 ・平田には以前バスが14号を走っていたが廃止された。市川や八幡へ行くのに足が悪いと特に不便。 ・杖をついて歩くことも困難な方が頑張って近くのコンビニに行く姿をよく見掛ける。 ・足が悪くて買い物に行けない。ひとりで行くにも自信がなく、行きたくても行けない。宅配等もやり方が分からない。 ・地域高齢化社会になり、買い物等が困難。	・ネットスーパー活用法、移動販売、宅食を教える。 ・時間があれば、買い物や病院の付き添いを手伝う。 ・自分はできると頑固な方もいる。見守ることしかできない。 ・お互い様事業等の利用。買い物も自分の目で見え購入したい方もいる。付き添い等できる人がもっといと良い。

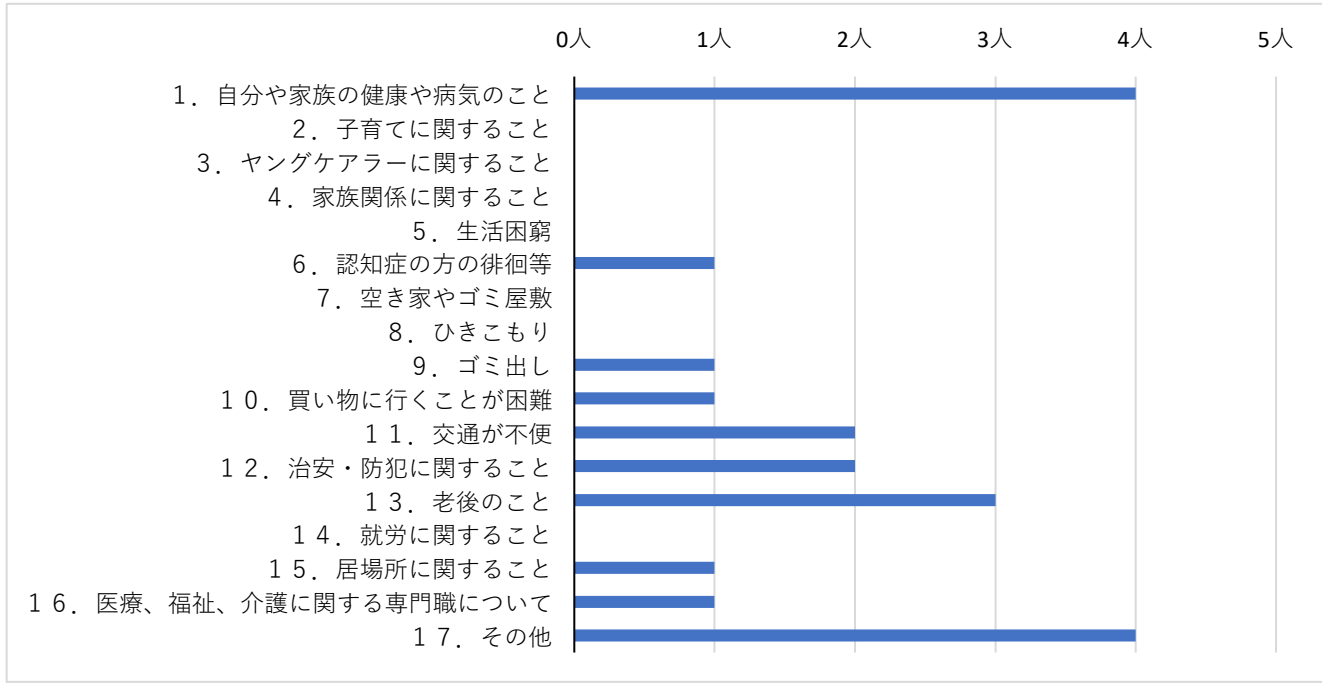
地区別重点課題について(真間地区)

◆アンケート回答者数
10人

◆真間地区の重点課題
自分や家族の健康や病気のこと
老後のこと

◆アンケート結果詳細
「1. 自分や家族の健康や病気のこと」「17.その他」の回答者数が最も多く4人、次いで「13. 老後のこと」の回答者数が3人といった結果だった。

1. 自分や家族の健康や病気のこと	4人
2. 子育てに関すること	0人
3. ヤングケアラーに関すること	0人
4. 家族関係に関すること	0人
5. 生活困窮	0人
6. 認知症の方の徘徊等	1人
7. 空き家やゴミ屋敷	0人
8. ひきこもり	0人
9. ゴミ出し	1人
10. 買い物に行くことが困難	1人
11. 交通が不便	2人
12. 治安・防犯に関すること	2人
13. 老後のこと	3人
14. 就労に関すること	0人
15. 居場所に関すること	1人
16. 医療、福祉、介護に関する専門職について	1人
17. その他	4人



◆具体的事例等

1. 自分や家族の健康や病気のこと	
具体的事例	地域住民としてできること
・夫の引きこもりが心配、「物忘れ外来」に誘っても行く気がない。高サボや地域ケアを紹介するが進展がない。妻が不安を抱えており心配。 ・独居の方は今は元気だが何かあった時の不安がある。家族がいる方は配偶者や親の健康に不安があるが、病院や介護認定の説得が難しいという。 ・来所者さんの中には自身で気を付けている方もいるが、年齢に伴う認知能力の低下等があり今後が心配。 ・働き手が病気になった時の不安。	・地域ケアや高サボに相談するよう話したが、なかなか足が向かない。妻に会う度に愚痴を聞いている。 ・腰痛が酷くなり、近所に住む自分に電話があった。救急車で搬送しご家族に連絡した。入院から施設入所となった。 ・行政や社協に繋げる。高サボの存在を伝える。 ・丁寧に話を聞き、差し支えない範囲で助言・アドバイスをする。
13. 老後のこと	
具体的事例	地域住民としてできること
・一人住いになった場合、不安を感じる。 ・相談事がリフォームの話しで、聞いている時に身内は誰もいないため、古い家をどこまでリフォームをしたら良いのか本人が決定する事がむずかしい。 ・成年後見人制度の事を話している時一ヶ月に1万円～3万円かかるため無理だと言っていた。これからこういう方が多くなるのではと思う。	・法律問題が入り、個人としては難しい。 行政の相談制度等が必要。
17. その他	
具体的事例	地域住民としてできること
・メンタル面でケアが必要な来所者さんがいらっしゃるため、その対応は常に気をつける必要がある。 ・精神の方の来所が多い。保健所の方に講習していただき、大変勉強になったが、日頃の胸の内にある課題を一気に話してくるため、スタッフは苦労している。 ・地域の掲示板を少しずつでも新しくしていただけたらと思う。昔からの画鋏ではなくマグネットで貼るもので、扉もついて雨風の日も安心なタイプ。 ・ご近所関係が希薄	・保健所職員の方の研修会でメンタルケアが必要な来所者さんの対応の仕方を理解できた。 ・講習していただき助かった。扱いがとても困難で、日々苦心しているスタッフと情報を共有し対応している。

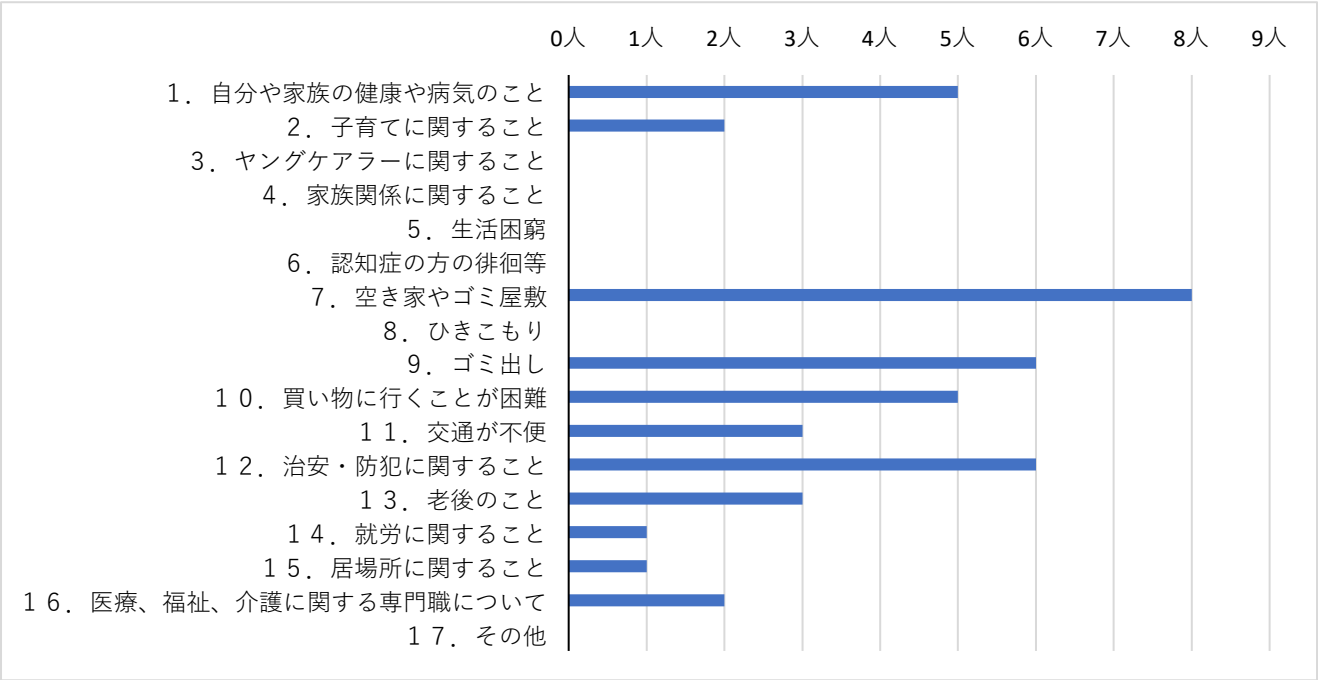
地区別重点課題について(菅野・須和田地区)

◆アンケート回答者数
23人

◆菅野・須和田地区の重点課題
空家やゴミ屋敷
ゴミ出し
治安・防犯に関すること

◆アンケート結果詳細
「7. 空き家やゴミ屋敷」の回答者数が最も多く8人、次いで
「9. ゴミ出し」、「12. 治安・防犯に関すること」の回答者数が6人といった結果だった。

1. 自分や家族の健康や病気のこと	5人
2. 子育てに関すること	2人
3. ヤングケアラーに関すること	0人
4. 家族関係に関すること	0人
5. 生活困窮	0人
6. 認知症の方の徘徊等	0人
7. 空き家やゴミ屋敷	8人
8. ひきこもり	0人
9. ゴミ出し	6人
10. 買い物に行くことが困難	5人
11. 交通が不便	3人
12. 治安・防犯に関すること	6人
13. 老後のこと	3人
14. 就労に関すること	1人
15. 居場所に関すること	1人
16. 医療、福祉、介護に関する専門職について	2人
17. その他	0人



◆具体的事例等

7.空き家やゴミ屋敷	
具体的事例	地域住民としてできること
・地区内で高齢化が進み、施設入所、お子さんの所へ行かれたり で、空き家の数が増え、管理ができず荒れ放題が増えている。 ・空き家が増えてきている。庭木や雑草の処理ができていない。 ・空き家、ゴミ屋敷が多く目立ってきている。行政はどのような対 応を考えているのか。生活環境が悪くなり、防犯上も問題とな る。今対策をしないと取り返しがつかなくなる。 ・空き家にどの程度手を出してよいのか分からない。 草を取っても良いのか、道路にはみ出したものはどうすれば 良いか。 ・空き家の木や草が生い茂っていたり、塀が傾いており地震が来 たら危ないと感じる。 ・買い物が多く、不要になったものを捨てられずにいるので、ゴミ 屋敷化していく。捨てさせる方法はないか。 ・防犯上の不安が広がっている。	・家の持ち主が分かれば、連絡し対処が可能となる。 ・空き家主が訪ねてきたタイミングで話をしたいと考 えている。 ・普段使わないものは片付けるか、処分するようにア ドバイスしている。 ・難しい。
9. ゴミ出し	
具体的事例	地域住民としてできること
・担当地域では、家の建て替えや区画変更が多く、新しい区画に 対するゴミ置場が遠くなったため、不便である。 利用家庭数が減ったため、新しいネットが配布されない。 ・引っ越ししてきた方と、出し方や場所についてもめる。 ・体力低下により、ゴミ出しが困勤な方がいる。 ・身体上の不足がある人への支援。 ・少しの距離でも大変、という状況になる方たちが増えている。 さらに対策が必要。	・清掃課に申し込んだが、「規則があるため例外は作 れない」と断られ改善できなかった。 ・高齢者サポーターに連絡した。 ・具体的な手伝いをしたいが、本人とのつながり方が 不明である。 ・ご自宅前に出したものを、伺ってステーションに運ぶ お手伝いはできる。ゴミ出しの日に出すものがあれ ば連絡をもらい、活動する方法が良い。
12. 治安・防犯に関すること	
具体的事例	地域住民としてできること
・近所に個人宅が増えてきた中で防犯、及びサギ等が必配だ。 ・この1年間でも空き家などの事例を良く聞くことがある。 1人住いの高齢者が多くなり防犯対策が難しくなっている。 ・ひとり暮らしのため、押し込み強盗、サギ等の不安がある。 ・空き巣、詐欺(屋根の修理等)や、「なんでも買います」という ようなことを言われる。 ・京葉ガスを装い家に入って来られ、不安になっている方がい る。 ・見えていない不安が広がっている。	・”電話でサギ”の注意喚起を訪問の都度伝える。 ・防犯グッズの紹介。 ・夜間、パトロールに回っている。 昼間は訪問時に玄関を開けないように伝えている。 ・話を聞いてなぐさめた。

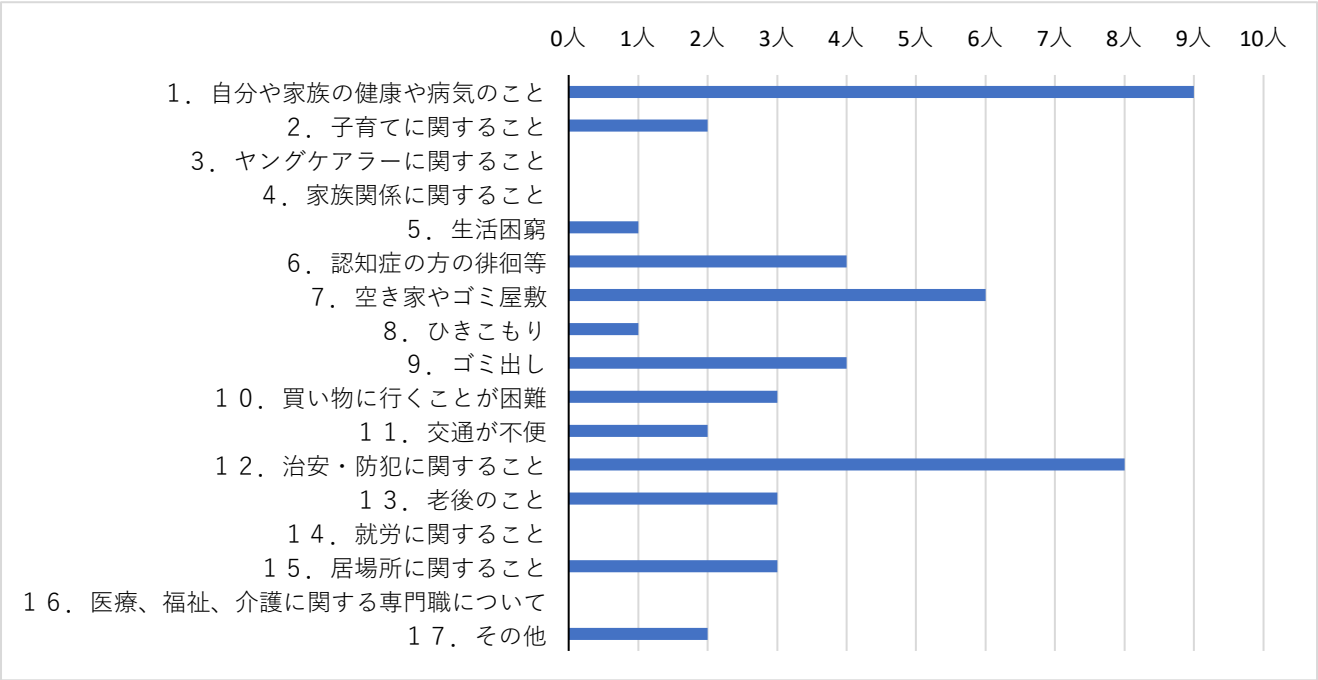
地区別重点課題について(八幡地区)

◆アンケート回答者数
19人

◆八幡地区の重点課題
自分や家族の健康や病気のこと
治安・防犯に関すること
空き家やゴミ屋敷

◆アンケート結果詳細
「10. 買い物に行くことが困難」の回答者数が最も多く9人、次いで
「1. 自分や家族の健康や病気のこと」、「7. 空き家やゴミ屋敷」の回答者数が7人といった結果
だった。

1. 自分や家族の健康や病気のこと	9人
2. 子育てに関すること	2人
3. ヤングケアラーに関すること	0人
4. 家族関係に関すること	0人
5. 生活困窮	1人
6. 認知症の方の徘徊等	4人
7. 空き家やゴミ屋敷	6人
8. ひきこもり	1人
9. ゴミ出し	4人
10. 買い物に行くことが困難	3人
11. 交通が不便	2人
12. 治安・防犯に関すること	8人
13. 老後のこと	3人
14. 就労に関すること	0人
15. 居場所に関すること	3人
16. 医療、福祉、介護に関する専門職について	0人
17. その他	2人



◆具体的事例等

1. 自分や家族の健康や病気のこと	
具体的事例	地域住民としてできること
・自分が病気になったら、倒れたらという心配がある。 ・病院受診時の付き添い等の心配。 ・本人、家族が病気や要介護状態に直面した際、独居、高齢世帯のため介護の手が少なく、在宅介護に不安を覚える。 ・高齢者が増えており、老々介護予備軍の世帯が増えている。 ・高齢者の独居もある。 ・認知症への不安。子どもはいるが結婚していない。 ・加齢とともに病気のことが心配になる。 ・病気を経験し体調管理に苦労している。子どもも障害認定されている。 ・近隣に一人暮らしの高齢者がいるが、これから病気や突然死等何かあった際に心配がある。	・自分も高齢なので付き添いへの協力が難しい。 ・介護申請の勧め、介護サービス(介護保険、自費等)の案内。 ・プライバシーに触れて欲しくないといった反応も多く、できることは限定されと感じる。 ・病後のリハビリに集まる場(健康体操等)のお手伝い。 ・一人暮らしの方と会った時に挨拶をする。夜に電気がついているか等確認をしている。
12. 治安・防犯に関すること	
具体的事例	地域住民としてできること
・訪問を断ってもなかなか帰らない。玄関を開けないように話している。 ・戸締りをしっかりしているが、空き家がちらほらあり、防犯防火ので気になる。 ・夜が心配になる。 ・テレビの闇バイト等の報道を見て不安になる。 ・一人暮らしの女性の家を不審な男がピンポンして訪ねてくる。 ・近隣で泥棒にあった方が多数いる。万一、出くわしてしまったらと思うととても怖い。怪しい営業も多数ある。 ・年齢的になかなかパトロールができず、最近防犯カメラや防犯灯を設置した。若い人達は玄関先が明るくなると困るとの話もある。 ・漠然とした不安がある。	・声掛け、地域内であった事例を情報として共有する。 ・近隣の方と知り合いになる。戸締り、知らない方には取り合わない。ネットにも注意する。 ・防犯灯の設置、防犯パトロールの実施。
7. 空き家やゴミ屋敷	
具体的事例	地域住民としてできること
・空き家が多く、空き巣等防犯に関する事。 ・家族の核家族化や高齢化に共なって、空家が増えてきている。ショートステイ等々は参加しているが、子供の未婚化が進んでいるため大きな問題になっている。 ・空き家がチラホラ有り、防犯防火の面で気になる。 ・雨戸が開かず電気も付きっぱなしの状態で、市警察へ連絡して調べてもらったところ亡くなっていた。 ・高齢で入院して、空き家になっていたとの事。 ・独居高齢者で、認知機能や身住機能の低下により、自宅の環境整備が困難だが本人が困りごとと認識していない。	・空き家については、町会のパトロールを行っている注意をはらって見ている。空き家の実態がわからないため困る時もある。 ・ゴミ屋敷について、複数回の関わりによる信頼関係の構築から、自費サービス、介護保険サービス等の案内。

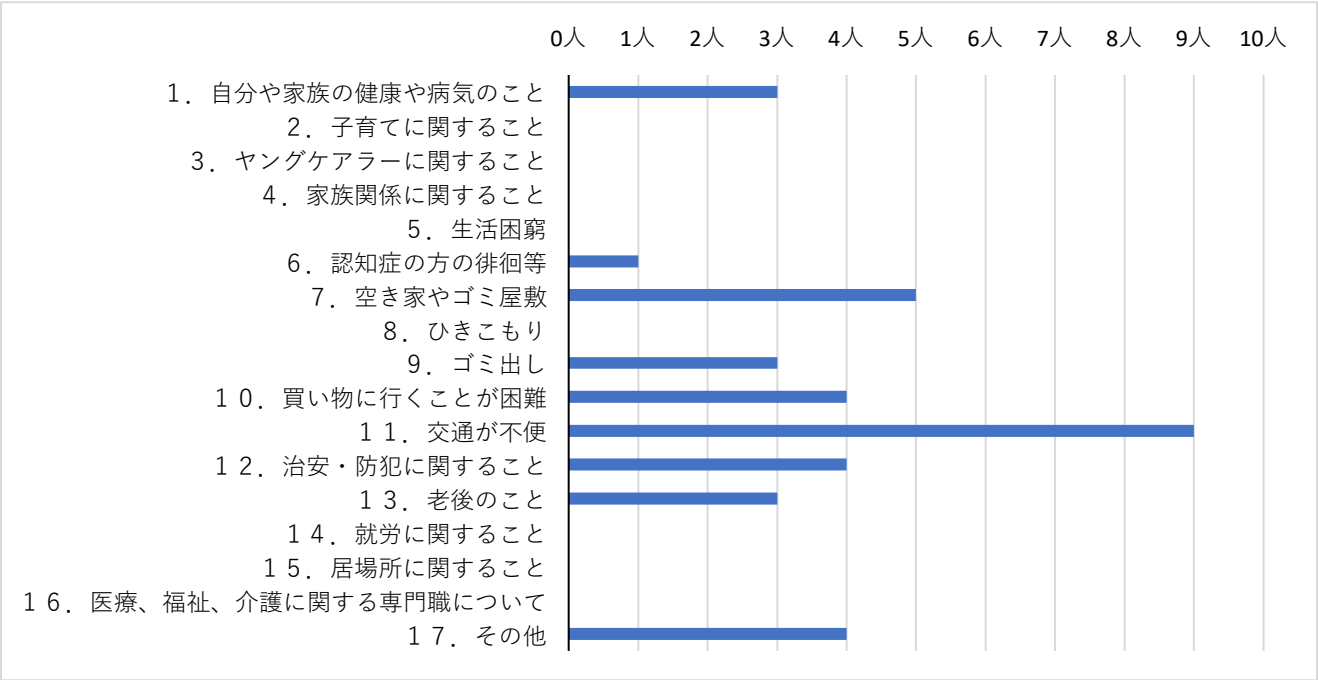
地区別重点課題について(市川東部地区)

◆アンケート回答者数
21人

◆市川東部地区の重点課題
交通が不便
空き家やゴミ屋敷

◆アンケート結果詳細
「11. 交通が不便」の回答者数が最も多く9人、次いで
「7. 空き家やゴミ屋敷」の回答者数が5人といった結果だった。

1. 自分や家族の健康や病気のこと	3人
2. 子育てに関すること	0人
3. ヤングケアラーに関すること	0人
4. 家族関係に関すること	0人
5. 生活困窮	0人
6. 認知症の方の徘徊等	1人
7. 空き家やゴミ屋敷	5人
8. ひきこもり	0人
9. ゴミ出し	3人
10. 買い物に行くことが困難	4人
11. 交通が不便	9人
12. 治安・防犯に関すること	4人
13. 老後のこと	3人
14. 就労に関すること	0人
15. 居場所に関すること	0人
16. 医療、福祉、介護に関する専門職について	0人
17. その他	4人



◆具体的事例等

11.交通が不便	
具体的事例	地域住民としてできること
・バスの本数が少なくなった。 ・高齢者の方が病院受診するための交通が不便なため、 交通費タクシー代金が多くかかり家計を圧迫している。 ・バスの本数が少ない。 タクシーを呼ぶにも台数や運転手が少ない。 ・コミュニティバスの経路が変わり、高齢者の方々が辛そうだ。	・どうしても個人の力では難しいと思う。 病院等への交通手段を考えてもらいたい。
7. 空き家やゴミ屋敷	
具体的事例	地域住民としてできること
・高齢者世帯の世帯主が亡くなったり、施設入居等で空き家が 増えて近隣住民から防犯や防災上に不安があると指摘がある。 ・近隣の方が、台風などには板が飛んで来るなど大変迷惑を 感じている。 ・長年空屋になっている家から、トタン板などが落ちてきて困って いる。 ・空き家でガラスが割れていたりして、小動物が中に入らないか 心配。 ・パトロールをしていると空屋が多い様に感じる。 防犯面や災害面からも現状が好転すれば良いと思う。	・定期的にパトロールを行っている。 市にも相談はしているが個人資産の壁がある。 ・落ちてきたトタンを片付ける以外はなにも出来ない。 ・場所の把握をし、見守るだけ。

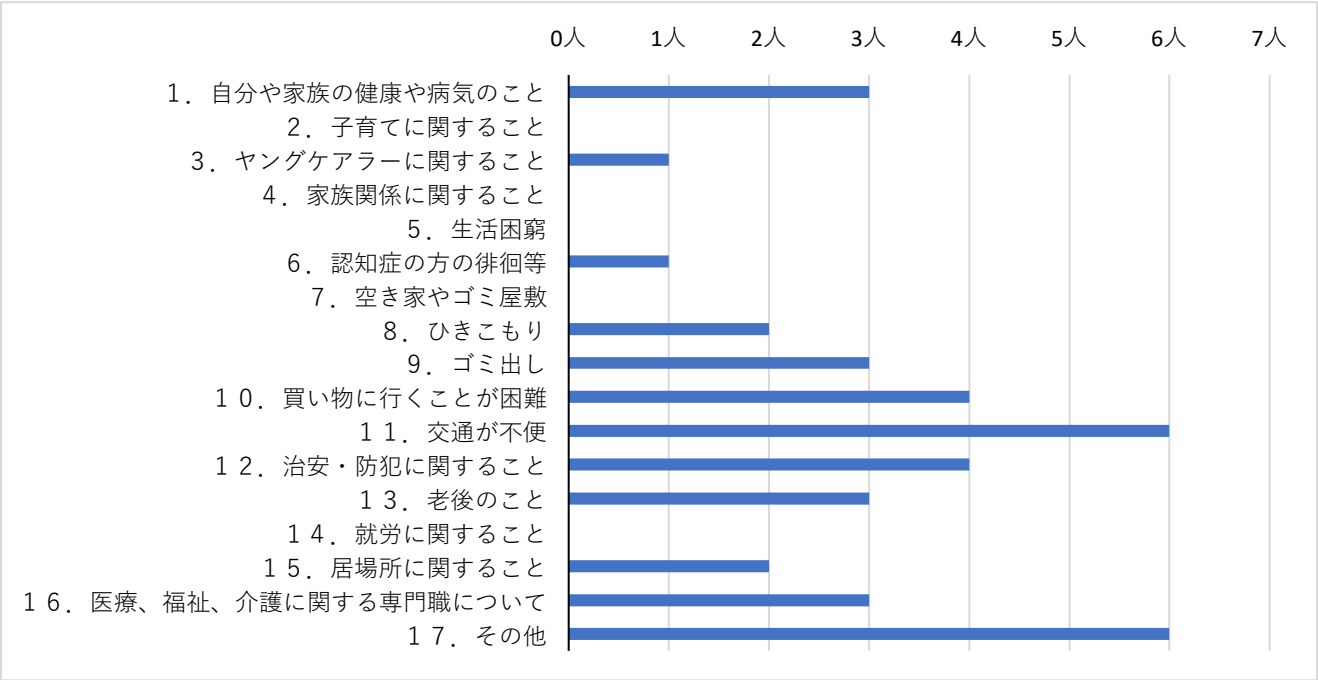
地区別重点課題について(信篤・二俣地区)

◆アンケート回答者数
18人

◆信篤・二俣地区の重点課題
交通が不便
買い物に行くことが困難
治安・防犯に関すること

◆アンケート結果詳細
「11. 交通が不便」「17.その他」の回答者数が最も多く6人だった。
次いで「10. 買い物に行くことが困難」「12. 治安・防犯に関すること」が多く4人だった。

1. 自分や家族の健康や病気のこと	3人
2. 子育てに関すること	0人
3. ヤングケアラーに関すること	1人
4. 家族関係に関すること	0人
5. 生活困窮	0人
6. 認知症の方の徘徊等	1人
7. 空き家やゴミ屋敷	0人
8. ひきこもり	2人
9. ゴミ出し	3人
10. 買い物に行くことが困難	4人
11. 交通が不便	6人
12. 治安・防犯に関すること	4人
13. 老後のこと	3人
14. 就労に関すること	0人
15. 居場所に関すること	2人
16. 医療、福祉、介護に関する専門職について	3人
17. その他	6人



◆具体的事例等

11.交通が不便	
具体的事例	地域住民としてできること
・病院や買い物に困る。 ・市バスの中止になり、病院への通院の足がなくなった。 ・近所のスーパーがなくなり、原木中山までの足がない。 ・バスがなくなる件。 ・バスが無い。 ・京成バスが廃止したことで、京葉道路を超えるのが不便。	
10. 買い物に行くことが困難	
具体的事例	地域住民としてできること
・コーナンがなくなった。 ・ベルクの件で買い物難民がいる。 ・コーナン閉店に伴い、買い物の場所が減った。 駅前に店はあるが、行くまでの道が狭く安全面に問題有り。 ・コーナン・ベルクが閉店し、不便	
12. 治安・防犯に関すること	
具体的事例	地域住民としてできること
・昨年2月末、帰宅中の女性が強盗事件あり ・闇バイト等昔と違い、今後防犯カメラやSECOM等が必要な時代である。車にもみんなカメラを付けている。	・防犯カメラ、注意喚起
17. その他	
具体的事例	地域住民としてできること
・災害への備え(心の準備含めて)が、不足しているように思う。 ・高谷地区には郵便ポストが少ないため、高齢者が手紙を出す場合ポストが遠い ・訪問販売、詐欺等 ・地域における防災に対する備えが心配。 ・震災等の災害への対策を強化してほしい。 ・外国人が増加している。 外国人家族の子育てや、地域での共生について取組んでほしい。 ・防災体制に関すること。	・消防団として ・訪問販売、詐欺の注意喚起

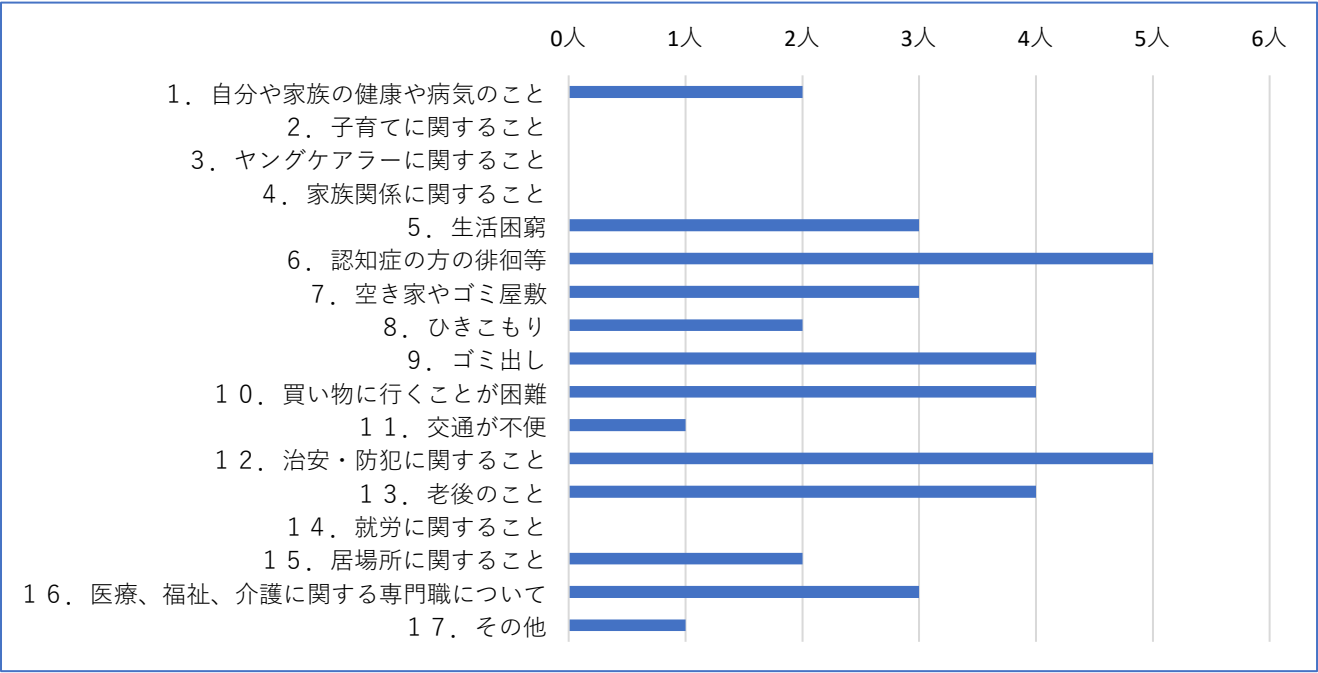
地区別重点課題について(行徳地区)

◆アンケート回答者数
16人

◆行徳地区の重点課題
認知症の方の徘徊等
治安・防犯に関すること

◆アンケート結果詳細
「6. 認知症の方の徘徊等」、「12. 治安・防犯に関すること」の回答者数が最も多く
5人といった結果だった。

1. 自分や家族の健康や病気のこと	2人
2. 子育てに関すること	0人
3. ヤングケアラーに関すること	0人
4. 家族関係に関すること	0人
5. 生活困窮	3人
6. 認知症の方の徘徊等	5人
7. 空き家やゴミ屋敷	3人
8. ひきこもり	2人
9. ゴミ出し	4人
10. 買い物に行くことが困難	4人
11. 交通が不便	1人
12. 治安・防犯に関すること	5人
13. 老後のこと	4人
14. 就労に関すること	0人
15. 居場所に関すること	2人
16. 医療、福祉、介護に関する専門職について	3人
17. その他	1人



◆具体的事例等

6. 認知症の方の徘徊等	
具体的事例	地域住民としてできること
・高齢者(認知症)単独ではない世帯、子どもと二人暮らし。扶養扱いのため、サービスが受けにくい。日中の安全等不安がある。 ・高齢夫婦の二人暮らし、やや認知症。飼っている犬がいなくなったと捜し歩いているとのこと。高サポ担当者と訪問し様子を見ていく予定。	
12. 治安・防犯に関すること	
具体的事例	地域住民としてできること
・警察を名乗る電話。容疑者が自分のことを知っており、色々教えて欲しいとのこと。そうゆう方は友人にはいなかった。 ・メールにて品物を配達したいが住所がはっきりしないので教えて欲しいとのこと。そもそも品物を注文していない。 ・自転車盗難が増えていると聞く。また、詐欺も増えているようなので心配。 ・空き巣の被害が起きている。防犯カメラ等の設置も考えている。 ・アポ電や訪問が時々あるようだ。特に独居高齢者が不安に感じしており、相談されることがある。	

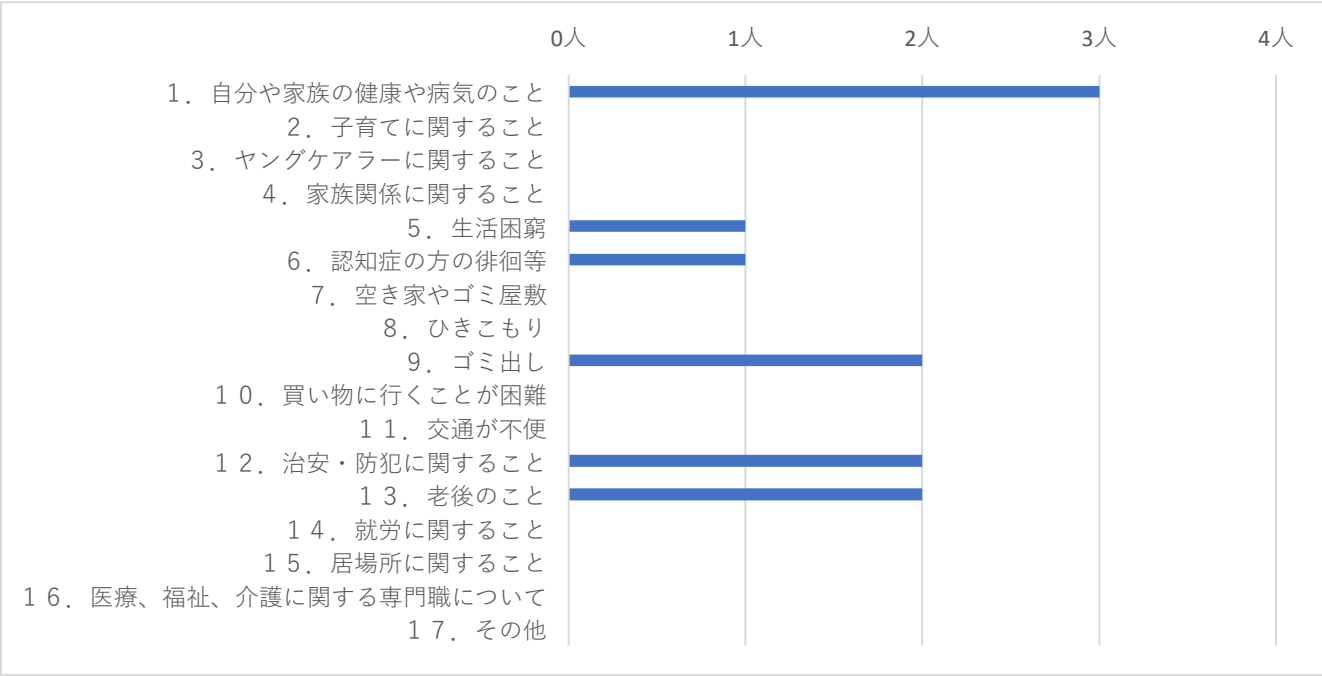
地区別重点課題について(南行徳地区)

◆アンケート回答者数
6人

◆南行徳地区の重点課題
自分や家族の健康や病気のこと
ゴミ出し
治安・防犯に関すること
老後のこと

◆アンケート結果詳細
「1. 自分や家族の健康や病気のこと」の回答者数が最も多く3人、次いで「9. ゴミ出し」、「12. 治安・防犯に関すること」、「13. 老後のこと」の回答者数が2人といった結果だった。

1. 自分や家族の健康や病気のこと	3人
2. 子育てに関すること	0人
3. ヤングケアラーに関すること	0人
4. 家族関係に関すること	0人
5. 生活困窮	1人
6. 認知症の方の徘徊等	1人
7. 空き家やゴミ屋敷	0人
8. ひきこもり	0人
9. ゴミ出し	2人
10. 買い物に行くことが困難	0人
11. 交通が不便	0人
12. 治安・防犯に関すること	2人
13. 老後のこと	2人
14. 就労に関すること	0人
15. 居場所に関すること	0人
16. 医療、福祉、介護に関する専門職について	0人
17. その他	0人



◆具体的事例等

1. 自分や家族の健康や病気のこと	
具体的事例	地域住民としてできること
・家族を介護している方が自身の体調管理のため、毎日歩き、歩けなくならないようにしている。 ・年々歳を取り、足や膝が痛くなり困っている。	・話をよく聞いてあげる。内容により関係機関を紹介したり、繋げてあげる。
9. ゴミ出し	
具体的事例	地域住民としてできること
・自分の家の前にゴミ出し場所の設置を拒んでいる様子。市の担当者話し合いをしたが状況は変わらない。 ・ゴミ出しの曜日を守らない。所定の袋を利用しない。カラスに荒らされる梱包をしている。	・ゴミ集積場所のチェックをする。
12. 治安・防犯に関すること	
具体的事例	地域住民としてできること
・泥棒が増えている。 ・市川市では最近カメラ付き防犯灯が100基設置され、防犯抑止と動いているがかなり規制があり困っている。当自治会で取り付け場所は規制NGです。目的は防犯抑止、犯罪が起きた際にカメラで犯人を特定すること。あまり規制があると必要な場所に取り付けできないので困る。	
13. 老後のこと	
具体的事例	地域住民としてできること
・10年後が不安。 ・この地域は戸建と集合住宅が集まっている。高齢化すると地域の催しものへの参加ができなくなり、孤立に向かっていくと思う。特に集合住宅に住む方たちがその傾向が強いようだ。どのように孤立防止をすれば良いか。	